

nord piano 6

ユーザーマニュアル

Nord Piano 6
日本語

OS バージョン: 1.1x

ありがとうございます！

この楽器の性能を最大限に活かすため、これらのダウンロードコンテンツをご確認ください。いずれも nordkeyboards.com から無料で入手できます。



OS アップデート

お使いの機器に対応する最新バージョンの OS は、Nord Web サイト nordkeyboards.com から随時提供されます。



Nord Sound Libraries

Nord ユーザーには、Nord Piano Library と Nord Sample Library から構成される、Nord Sound Libraries が提供されます。高品位なサウンドの数々に加え、世界中の有名アーティストが手掛けた Signature Sound Bank もラインナップされています。



Nord Sound Manager

Nord Sound Manager を使うことで、バックアップやレストア、お使いの機器への Nord Sound Library の転送や管理を行えます。



Nord Sample Editor

Nord Sample Editor を使うことで、サンプルの編集からお使いの機器への転送までを手軽に完結できます。オーディオファイルをドロップするだけで、キーボードへのマッピングもピッチ検出も自動で行われます。

もくじ

1 はじめに6

ありがとうございます6

主な特長6

Nord Online6

OS アップデート6

無料のサウンド6

カスタムサンプル6

工場出荷時の状態に戻す6

ユーザーマニュアルについて6

マニュアルを PDF 形式で読む6

免責事項6

2 概要7

Nord Piano 6 を構成する要素7

マスターセクション7

ピアノセクション7

サンプルシンセセクション7

プログラムセクション7

エフェクトセクション7

3 始めましょう8

電源を入れる8

パネルコントロール8

フェーダー8

ダイヤルとノブ8

ボタン8

ボタンの長押し8

シフト機能8

マスターレベルノブ8

ソフトボタン8

プログラム9

プログラムを選択する9

リストビュー9

プログラムを編集する9

メモリープロテクトをオフにする9

プログラムをストアする9

ライブモード10

エフェクトをかける10

サンプルシンセをレイヤーする10

2 つのピアノをレイヤーする10

2 つのレイヤーにエフェクトをかける10

スプリットを編成する10

スプリットにクロスフェードを適用する11

4 ピアノ12

レイヤーのオン/オフとレベルの調整12

レイヤーボタンとエフェクトフォーカス12

キーボードゾーン12

オクターブシフト12

サステインペダルとボリュームペダル12

ピアノサウンドについて12

Nord Piano Library のファイルサイズについて13

ストリングレゾナンス13

ピアノサウンドを選択する13

クラビネットについて13

ピックアップの種類13

リストビュー13

キーボードタッチ14

ダイナミックコンプレッション14

ペダルノイズ14

Nord Triple Pedal14

サステインとハーフペダル14

ソステヌート14

ソフトペダル14

ティンバー15

アコースティックピアノのティンバー設定15

エレクトリックピアノのティンバー設定15

クラビネットの設定15

ピアノサウンドの情報を確認する15

ユニゾン15

5 サンプルシンセ16

レイヤーのオン/オフとレベルの調整16

レイヤーボタンとエフェクトフォーカス16

キーボードゾーン16

オクターブシフト16

サステインペダルとボリュームペダル16

サンプルインストゥルメントを選択する16

リストビュー17

サンプルインストゥルメントの音作り17

ダイナミクス17

サンプルサウンドの情報を確認する17

エンベロープ17

モノラルゲート17

グライド17

ユニゾン17

ピブラート17

ピブラートメニュー17

ピブラートボタン17

6 プログラム18

トランスポーズ18

スプリット18

キーボードスプリット設定18

スプリットポジションを調整する18

スプリットにクロスフェードを適用する19

ストア19

プログラムをストアする19

名前を付けてストアする19

シフトボタン19

ライブモード19

ニューメリックパッドモード19

プログラムビューモード20

パニック20

プログラムボタン20

プログラムとは20

メニュー20

プログラムダイヤル20

プログラムリストとソート20

ページ、カテゴリー、およびバンク20

イニシャライズ20

プログラムを整頓する20

オーガナイズビューに入る20

2 つのプログラムを入れ替える21

プログラムを移動する21

MIDI LED インジケーター21

7 エフェクト22

概要22

エフェクトとグローバルモードのオン/オフ22

FX On ボタンとエフェクトフォーカス22

グループ22

モジュレーション 122

コントロールペダル22

トレモロ22

パン 1 & パン 223

スピン23

ワウ23

リングモジュレーション23

モジュレーション 223

エフェクトをモノラル仕様で使う23

フェイザー 1 & フェイザー 223

フランジャー23

コーラス 1 & コーラス 223

バイブ23

ディレイ.....	23	Left Out & Right Out.....	33
ピンポンディレイ.....	23	Monitor In.....	33
フィードバックフィルター.....	24	MIDI.....	33
フラム.....	24	MIDI In.....	33
タップテンポ.....	24	MIDI Out.....	33
イコライザー.....	24	USB.....	33
アンプ.....	24	ペダル.....	33
チューブオーバードライブ.....	24	Triple Pedal.....	33
アンプモデル.....	24	Sustain Pedal.....	33
Alt Tone 設定.....	24	Vol/Ctrl Pedal.....	33
コンプレッサー.....	24	Foot Switch.....	33
グローバルリバーブ.....	25	Nord Piano Monitor.....	34
リバーブタイプとプリディレイ設定.....	25		
ブライト/ダークモードとコラール設定.....	25	II MIDI コントローラーナンバー表.....	35
レイヤーセンド.....	25		
8 MIDI.....	26	III アップデート手順ガイド.....	36
MIDI 機能.....	26	Nord オペレーティングシステム.....	36
MIDI チャンネル.....	26	バージョン番号.....	36
Nord Piano 6 の演奏を音楽制作アプリに記録する.....	26	Windows をお使いの場合.....	36
MIDI メッセージ.....	26	Windows 用 Clavia USB ドライバー.....	37
ノートオンとノートオフ.....	26	Mac をお使いの場合.....	37
コントローラー.....	26	困ったときは.....	37
プログラムチェンジ.....	26	アップデートモードで起動する.....	37
ローカルコントロール.....	26	IV ファクトリーリストア手順ガイド.....	38
パニック.....	27		
9 Nord Sound Manager.....	28	V 索引.....	39
Nord Sound Manager について.....	28		
動作環境.....	28		
10 Nord Sample Editor 4.....	29		
Nord Sample Editor 4 について.....	29		
動作環境.....	29		
11 メニュー.....	30		
System メニュー.....	30		
1 - Memory Protect.....	30		
2 - Global Transpose.....	30		
3 - Fine Tune.....	30		
4 - LED Intensity.....	30		
5 - Version.....	30		
Sound メニュー.....	30		
1 - Volume Level Offset.....	30		
2 - Output.....	30		
3 - Piano Pedal Noise Level.....	30		
MIDI メニュー.....	30		
1 - Local Control.....	30		
2 - MIDI Channel.....	30		
3 - MIDI Program/Control/Device Change.....	31		
Program Change Mode.....	31		
Control Change Mode.....	31		
Device Change Mode.....	31		
4 - Transpose MIDI At.....	31		
5 - MIDI Out Velocity Curve.....	31		
Pedal メニュー.....	31		
1 - Control Pedal.....	31		
Type.....	31		
Gain.....	31		
2 - Sustain Pedal Type.....	31		
3 - Triple Pedal Function.....	31		
4 - Foot Switch.....	31		
Type.....	31		
Sw A (A Function).....	32		
Sw B (B Function).....	32		
I 接続端子.....	33		
オーディオ.....	33		
Headphones.....	33		

1 はじめに

ありがとうございます

Nord Piano 6 をお選びいただきありがとうございます。クリエイティブかつパワフルなサウンドデザイン機能と、エレガントで直感的なユーザーインターフェイス、そして妥協なき演奏体験。そのすべてを提供するべく、本機は設計されました。

トリプルセンサーを備えた鍵盤が Virtual Hammer Action テクノロジーと組み合わせ、これまでないリアリズムと抑揚表現を実現します。

Nord Piano 6 のサウンドを支える Nord Piano Library は、緻密にサンプリングされた、ピアノとその他の鍵盤楽器のコレクションです。随時新しいサウンドが追加され、そのすべてを無料でダウンロードできます。

Nord Piano 6 が、今後何年にもわたってあなたの音楽にインスピレーションを与え続けることを願っています。

主な特長

Nord Piano 6 の主な特長は次の通りです。

- ・ スプリット構成やレイヤー構成に便利な、独立したレイヤーを 2 つ備えたピアノセクション。Grand、Upright、Electric、Clavinet/Harpsichord、Digital の各カテゴリから好きなサウンドを組み合わせ、リッチなピアノレイヤーを作成できます。Misc カテゴリは表情豊かなマレット楽器 – マリンバとビブラフォンを提供します。
- ・ トリプルセンサーを備えた、88 鍵または 73 鍵のウェイトッド鍵盤。
- ・ Nord Virtual Hammer Action テクノロジー。
- ・ サンプルシンセセクションにも独立したレイヤーを 2 つ装備。
- ・ すべてのレイヤーで個別に備えた、総合的なエフェクトセクション。
- ・ プログラム変更時の音切れを防ぐ、シームレストランジション。
- ・ レイヤーごとのキーボードゾーン設定と、ポイント近辺でのクロスフェード設定を備えた、キーボードスプリット機能。

Nord Online

Nord Web サイト nordkeyboards.com でこれらにアクセスできます。

- ・ Nord Piano 6 やその他の Nord 製品に関する情報。
- ・ 最新の OS のダウンロード。
- ・ 無料のソフトウェア – Nord Sound Manager、Nord Sample Editor 4、およびドライバー。
- ・ Nord Piano Library サウンドの無料ダウンロード。
- ・ Nord Sample Library サウンドの無料ダウンロード。
- ・ Nord World – Nord 製品にまつわるニュース、セッション、およびその他の動画。
- ・ ユーザーマニュアルのダウンロード。

Facebook、Instagram、X (Twitter)、および YouTube の Nord 公式アカウント (@nordkeyboards) では、役に立つ最新情報を随時更新しています。SNS への投稿には公式ハッシュタグ #iseenord をお気軽にお使いください。

OS アップデート

Nord Piano 6 用の最新 OS はいつでも Nord Web サイトからダウンロードできます。「Update History」ページでは、どの機能が更新されたのかわかるバージョンごとにまとめて閲覧できます。定期的に確認し、お使いの機器を最新バージョンに保ってください。

無料のサウンド

Nord Piano 6 では、Nord Piano Library および Nord Sample Library のサウンドファイルと Nord Sound Manager アプリケーションを使って、本体メモリー上のすべてのピアノとサンプルを入れ替えることができます。操作に必要なものはすべて無料でダウンロードできます。

カスタムサンプル

Nord Sample Editor 4 を使えば、カスタムサンプルの作成を素早く簡単に行えます。全鍵にマッピングした本格的なインストゥルメントを作成する場合でも、シンプルな効果音や楽曲のイントロのみを単一のキーに割り当てる場合でも、Nord Sample Editor 4 を使うことで Nord Piano 6 をさらに便利に活用できます。

工場出荷時の状態に戻す

工場出荷時のプログラム、ピアノ、およびサンプルは、それぞれ個別の Nord Sound Manager バンドルファイルとして Nord Web サイトからダウンロードできます。すべての設定とコンテンツを復元するために必要な、「まるごとバックアップ」ファイルも提供しています。詳しくは、「ファクトリーレストア手順ガイド」(6 ページ) をご参照ください。

☞ (訳注) Nord 製品では工場出荷時の状態に戻す操作を「ファクトリーレストア (Factory Restore)」と呼びます。

ユーザーマニュアルについて

このマニュアルは Nord Piano 6 に搭載されたすべての機能を網羅するように構成されています。演奏や制作の現場で役に立つ、実践的な活用例もご紹介しています。

マニュアルを PDF 形式で読む

PDF 版マニュアルは Nord Web サイトの「Downloads」ページからダウンロードできます。

免責事項

このマニュアルにおいて言及されるあらゆる商標やブランド名は、それぞれの所有者の財産です。これらへの言及は、Nord Piano 6 が生成する特定のサウンドに対する説明を補助することのみを目的としており、Clavia が認可や提携を受けたことを示すものではありません。

2 概要



Nord Piano 6 を構成する要素

Nord Piano 6 のフロントパネルは、関連する機能のグループである「セクション」の連なりにより構成されています。左から順に見てみましょう。

マスターセクション

最も左に位置するマスターセクションには、機器全体の音量レベルをコントロールするための **[MASTER LEVEL]** ノブと、サンプルシンセのビブラートを手動でコントロールするための **[VIBRATO]** ボタンが配されています。詳しくは「ビブラート」(7 ページ) をご参照ください。

ピアノセクション

Nord Piano 6 は、ピアノとその他の鍵盤楽器の広範なコレクションである Nord Piano Library に対応しています。随時追加される新しいサウンドは、Nord Web サイトから無料でダウンロードできます。

ピアノセクションには 2 つのレイヤーがあり、それぞれに備えられたパネルコントロールを使って、簡単にオン/オフしたり組み合わせたりできます。

このセクションにはアコースティックピアノのためのストリングレゾナンス機能 (**STRING RES**) をはじめ、ペロシティレスポンスの調整 (**KB TOUCH**)、ピアノサウンドのキャラクターの変更 (**TIMBRE**)、およびユニゾン (**UNISON**) といった各要素へのコントロールもまとめられています。

同梱されている Nord Triple Pedal 2 を使えば、ダンパー機構によって奏でられるノイズを再現するダイナミックペダルノイズ (**PEDAL NOISE**) 機能に加え、ウナコルダやソステヌートといったピアノ特有の奏法にも対応できます。

サンプルシンセセクション

Nord Sample Library は Nord Piano 6 オーナーに、Mellotron や Chamberlin といった著名なビンテージテープサンプラーから、豊かな Symphobia スtrings に至るまで、世界クラスの膨大なサウンドへのアクセスを無料で提供します。

数々のサンプルが工場出荷時からスタンバイしており、そのキャラクターやレスポンスはパネルから直接、さまざまな方法で調整できます。

モノ (**MONO**)、レガート (**LEGATO**)、およびピッチの変化にかかる長さを 3 段階で調節できるグライド (**GLIDE**) の各モードを使えば、伝統的なモノフォニックシンセサウンドを再現することもできます。

サンプルシンセセクションにもピアノセクションと同様に 2 つのレイヤーとそれぞれに独立したレイヤーコントロールが備わっています。

プログラムセクション

Nord Piano 6 では、ピアノ、サンプル、エフェクト、スプリット、およびトランスポーズの各設定をまとめたものを「プログラム」と呼びます。

プログラムセクションでは、プログラムの選択や保存、さまざまなパフォーマンス機能や設定メニューへのアクセスを行えます。大型 OLED ディスプレイには、ピアノ/サンプルサウンド名も表示されます。

エフェクトセクション

すべてのピアノ/サンプルレイヤーに個別のエフェクトチェーンを備えた Nord Piano 6 は、自由度の高いサウンドデザインを実現します。エフェクトで作り込んだレイヤーを複数重ねることもできます。

MOD 1 と **MOD 2** は、伝説的な名機のモデリングに基づいた、トレモロ、フェイザー、コーラスなどの主要なモジュレーション系エフェクトを提供します。Mod 1 のすべてのエフェクトはペダルでの操作に、Mod 2 のすべてのエフェクトはステレオ/モノラルの切り替えに、それぞれ対応しています。

EQUALIZER は 3 バンド構成です。中域の周波数は調整できます。レイヤーごとに使うことも、**GLOBAL** 設定でマスターイコライザーのように使うこともできます。

AMP には絶妙なクランチから「フルテン」の歪みまで、さまざまなアンブシミュレーションが **ALT TONE** オプションとともに用意されています。

COMP では細やかなダイナミクスの調整から、強くかかった「コンプサウンド」の生成まで、幅広いサウンドメイキングができます。

DELAY はさりげないアンピエンスの生成から「スラップバック」効果、鳴りやむことのない音空間の創造に至るまで、あらゆる用途に使えます。3 つの異なるフィードバックフィルター (**FB FILTER**) と **PING PONG** オプション、**FLAM** エフェクトを使って、幅広いバリエーションを実現できます。

REVERB ではさまざまなアコースティックリバーブとスプリングリバーブが提供されます。**PRE-DELAY** ではプリディレイタイムの長短の調節が、**BRIGHT/DARK** モードと **CHORALE** オプションではさらなる雰囲気演出ができます。

3 始めましょう

この章では一般的なシナリオとタスクを通じ、Nord Piano 6 の基本的な機能を段階的に説明します。

電源を入れる

- 1 付属の電源コードでコンセントと Nord Piano 6 本体とを接続します。ペダルやモニター機器も Nord Piano 6 に接続します。
- 2 モニター機器の電源が切られていることを確認してから、Nord Piano 6 の電源を入れます。出力音量にご注意ください。

Nord Piano 6 に搭載されたすべての接続端子を含む詳細については、「接続端子」(8 ページ)をご参照ください。



[ON/OFF] ボタンは機能または機能のグループを有効化/無効化するために使います。ボタンの上には、オン/オフ状態を示す LED が付いています。

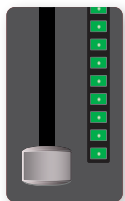
ボタンの長押し



TRANSPOSE [ON/SET ▼] のように下向き矢印 (▼) を伴ったボタンでは、0.5 秒程度長押しすることで別の機能にアクセスしたり、追加の設定を行ったりすることができます。

パネルコントロール

フェーダー



フェーダーは、レイヤーの現在の音量レベルを視覚的に表示する LED インジケーターと、物理スライダーの 2 つからなります。各セクションのレイヤー A とレイヤー B のそれぞれにフェーダーが備わっています。

ダイヤルとノブ



Nord Piano 6 では、**[PROGRAM]** のように 360 度回し続けられるタイプのノブを「ダイヤル」と呼びます。メニューを遷移したり、プログラムやパラメーターを選択したりするために使います。



Nord Piano 6 のほとんどのパラメーターは、ポテンシオメータータイプのノブを使って設定します。多くの場合、プログラムからロードされた直後の各パラメーターの設定値は、パネルが示すものと一致しません。このような場合でも、ノブを回すと設定値がすぐに追従します。

- 💡 設定値に影響を与えずに現在の設定値の確認のみを行うには、**[SHIFT]** ボタンを押しながら対応するノブを回します。

ボタン

セレクトボタンは、いくつかの候補から単一の設定を選択するためのコントロールです。現在の設定を示す円形または三角形の LED が付いています。ボタンを押すごとに設定が切り替わります。



シフト機能



Nord Piano 6 に備わったパネルコントロールの多くは、ラベル下段に示されるもうひとつの機能を持っています。これらには、**[SHIFT]** ボタンを押しながらノブやボタンを操作することでアクセスできます。

- 💡 ほとんどのシフト機能は、対応するボタンを 1 秒程度長押しすることでも使えます。

Shift ボタンは **[EXIT]** ボタンとして、メニューを閉じたり操作をキャンセルしたりする時にも使います。

マスターレベルノブ



[MASTER LEVEL] ノブは **[LEFT OUT]**、**[RIGHT OUT]**、および **[HEADPHONES]** から出力される全体の音量レベルを制御します。ほかのパネルコントロールと異なり、このノブの値は個別のプログラムにストアされません。Nord Piano 6 は常にこのノブが示す通りの音量で出力します。

ソフトボタン

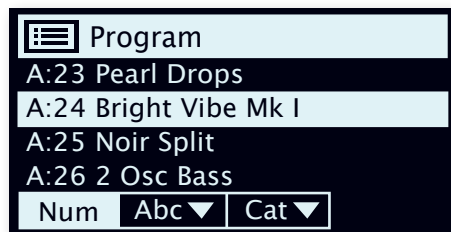
メニューやオーガナイズビューでは、ディスプレイ下部に設定項目への見出しや実行できるコマンドが表示されます。これらの「ソフトボタン」には、**PROGRAM [2]~[5]** ボタンでアクセスします。たとえば下図の状況で **PROGRAM [2]** ボタンを押すと、Nord Piano 6 はプログラム A:24 に対する **Swap** 操作を受け付けます。



プログラム

パネルの中央には、OLED ディスプレイを備えたプログラムセクションがあります。

プログラムには、Master Level を除くすべてのパラメーターの設定値が含まれます。Nord Piano 6 のプログラムメモリーは A~P の 16 バンクに分かれており、合計 576 個のプログラムを保存できます。



i 工場出荷時のプログラムは、Nord Web サイトからダウンロードできます。

プログラムを選択する

プログラムを選択する方法には次の 2 つがあります。

- ・ 6 つの **PROGRAM** ボタンのいずれかを押す。
- ・ **[PROGRAM]** ダイヤルを回す。

[PAGE ◀ / ▶] ボタンを押すと、プログラムを「ページ」単位で遷移できます。1 つのページには、6 つのプログラムが含まれます。

[SHIFT] + [BANK ◀ / ▶] を押すと、プログラムを「バンク」単位で遷移できます。1 つのバンクには、6 つのページが含まれます。

リストビュー

[PROGRAM] のようにリストアイコン（) をラベルに伴うダイヤルでは、便利ナリストビューにアクセスできます。

- [SHIFT]** を押しながら **[PROGRAM]** ダイヤルを回すと、リストビューが開きます。
- プログラムを切り替えるには **[PROGRAM]** ダイヤルを回します。16 のバンク、すべてのプログラムにアクセスできます。
- Abc** ソフトボタンと **Cat** ソフトボタンをそれぞれ試してみましょう。Abc モードではプログラムは名前順でソートされ、Cat モードではプログラムはカテゴリー順でソートされます。
- [EXIT]** ボタンを押して、リストビューを閉じます。

💡 **[PIANO]** ダイヤルと **[SAMPLE]** ダイヤルでも、同様の手順でリストビューを使えます。

プログラムを編集する

プログラムを編集することは、ノブを回したりボタンを押したりして既存の設定を変更することの延長線上にある、簡単な操作です。実際にやってみましょう。

- プログラム A:11（あるいはいずれかのピアノ主体のもの）を選びます。

💡 ピアノに関するコントロールはパネルの左側に配されています。選択中のピアノサウンドの名前はプログラムセクションの OLED ディスプレイに表示されます。

- Nord Piano 6 では、それぞれのピアノサウンドを Grand や Upright といった「タイプ」別に分けて管理しています。**[PIANO SELECT]** ボタンを押して、演奏したいタイプを選びます。

- PIANO SELECT [MODEL]** ダイヤルを回して、使うピアノサウンドを決めます。

💡 パネル上のいずれかのパラメーターを変更するとプログラム番号の隣に「E」インジケーターが現れます。これは、「プログラムが変更された (edited) もの、メモリーへのストア操作はまだ行われていない」、という状態を示します。ストア操作を行う前に別のプログラムを選ぶと、編集していた内容は失われてしまいます。

メモリープロテクトをオフにする

誤って元のプログラムを上書きしてしまうことを防ぐために、工場出荷時の Nord Piano 6 はメモリーが保護されています。メモリープロテクトは System メニューでオフにできます。

- [SHIFT] + [SYSTEM]** を押して、System メニューを開きます。
- メモリープロテクションはメニューの 1 番目の項目です。もしディスプレイが別の設定項目を示している場合は、Memory Protect ページが表示されるまで **[PAGE ◀]** ボタンを押します。
- [PROGRAM]** ダイヤルを回して、「Off」に設定します。
- [EXIT]** ボタンを押して、メニューを閉じます。

i ここで設定した内容は、次に変更されるまで永続的に保存されます。ほかのシステム設定も同様です。

ほかのメニュー項目については、「メニュー」（9 ページ）をご参照ください。

プログラムをストアする

- プログラムのストア操作を始めるには、ディスプレイの左側にある **[STORE]** ボタンを押します。
- LED が点滅し、プログラムをどのロケーションにストアするかを尋ねるメッセージがディスプレイに表示されます。



- 編集したプログラムで現在のプログラムを上書きする場合は、もう一度 **[STORE]** ボタンを押します。

💡 この時、選択したプログラムが一時的にロードされます。新しいサウンドで上書きする前に試奏することができます。

- [PROGRAM]** ダイヤルや **PROGRAM** ボタン、**[PAGE ◀ / ▶]** ボタンを使うと、保存先を指定できます。もう一度 **[STORE]** ボタンを押すと、プログラムは指定したロケーションにストアされます。

i スタ操作を中止するには、**[EXIT]** ボタンを押します。

ストア操作や、プログラムに名前を付ける方法の詳細については、「プログラム」（9 ページ）をご参照ください。

ライブモード

6つのライブプログラムでは、ほかのプログラムとは異なり、すべての編集が即座に保存されます。手動でストア操作を行う必要はありません。

- 1 6つのライブプログラムを選択するには、**[LIVE MODE]**を押してから**PROGRAM [1]～[6]**ボタンを使います。
- 2 エフェクトのオン/オフなど、変更を加えます。
- 3 別のプログラムを選択してから、先ほど編集したライブプログラムに戻ります。
- 4 編集が自動で保存されていることを確認できたら、**[LIVE MODE]**ボタンをもう一度押してライブモードを終了します。

ライブプログラムは必要に応じて、ライブプログラム用の6つから離れ、レギュラープログラムバンクの適当なロケーションを選んでストアすることができます。

反対に、ストア操作のStore Program To 画面で**[LIVE MODE]**ボタンを押すことで、ライブプログラムをストア先のロケーションに指定することもできます。元がレギュラープログラムであっても、ライブプログラムとしてストアされてからは、すべての編集が即座に保存されるようになります。

エフェクトをかける

グランドピアノにリバーブとディレイを加えてみましょう。

- 1 A:11 White Grand またはグランドピアノに基づくいずれかのプログラムを選択します。
- 2 **GLOBAL REVERB [ON]** ボタンを押して、リバーブをオンにします。
- 3 **[DRY/WET]** ノブでバランスを調整します。
- 4 **DELAY [ON]** ボタンを押して、ディレイをオンにします。
- 5 **[TEMPO]**、**[FEEDBACK]**、**[FB FILTER]**、および **[DRY/WET]** の各コントロールを使って、ディレイの質感やかかり具合を変更します。

サンプルシンセをレイヤーする

「エフェクトをかける」で作成したピアノサウンドに、ストリングスを重ねてみましょう。

- 6 **SAMPLE SYNTH [LAYER A]** ボタンを押して、オンにします。
 - 7 **[CATEGORY]** ダイアルを回して、Strings Ensemble カテゴリーを選択します。カテゴリーはアルファベット順に並んでいます。
- 🔊 **[SHIFT]** を押しながら **[CATEGORY]** ダイアルを回すと、リストビューが開きます。リストビューを使うと、そのカテゴリー内のすべてのサウンドが表示されます。
- 8 **[SAMPLE]** ダイアルを回して、カテゴリーの中からサウンドを選択します。サンプルの名前はディスプレイ下部に表示されます。
 - 9 **[LAYER A]** フェーダーを使って、ピアノとストリングスの音量バランスを整えます。

サンプルがロードされると、エンベロープやダイナミクスといったサンプルシンセの設定もサンプルが持つプリセット値に初期化されます。これらのパラメーターは、お好みに応じてさらに手動で調整できます。サンプルシンセセクションのコントロールについては、「サンプルシンセ」（19 ページ）をご参照ください。

2つのピアノをレイヤーする

同じセクションのレイヤーを2つ同時に鳴らしてみましょう。

🔊 （訳注）このチュートリアルを実践する前に、A:11 White Grand を選んでおく、または **[SHIFT] + [PROG INIT]** でプログラムを初期化しておくことをおすすめします。

- 1 **PIANO [LAYER A]** ボタンと **PIANO [LAYER B]** ボタンを同時に押すと、2つのピアノがレイヤーされます。ここでいずれかのレイヤーボタンを押すと、編集の対象とするレイヤーが切り替わります（点滅する赤いLEDで示されます）。ここでは **PIANO [LAYER B]** を押して、Piano B を編集の対象にします。
 - 2 **PIANO SELECT** コントロールを使って、どのピアノサウンドを Piano A に重ねるか選択します。たとえば、Piano A で選ばれているグランドピアノやアップライトピアノに対して、Piano B でエレクトリックピアノをレイヤーします。
 - 3 レベルフェーダーを使って2つのレイヤーのバランスを調整します。
- 🔊 レイヤーをオフにするには、レイヤーボタンを長押しします。

2つのレイヤーにエフェクトをかける

「2つのピアノをレイヤーする」で作成したピアノサウンドに、エフェクトをかけてみましょう。

- 4 **PIANO [LAYER A]** を押して、Piano A を編集の対象に選びます。
- 5 **FX FOCUS [PIANO A]** LED が点灯することに注目しましょう。このLEDは、現在どのレイヤーのエフェクトを編集しているかを示します。
- 6 リバーブをオンにして、**[SHIFT] + [LAYER SEND]** を押します。レイヤーごとに異なるセンド量を設定できるようになります。
- 7 セレクターで **HALL** リバーブを選び、**[DRY/WET]** ノブを左に回して Piano A のセンド量を少なめに設定します。
- 8 **PIANO [LAYER B]** を押して Piano B を選び、**[DRY/WET]** ノブを右に回してセンド量を多めに設定します。これで、「ドライ」な Piano A とアンピエンスに満ちた Piano B のレイヤーサウンドができました。
- 9 Piano A の編集と Piano B の編集とを行き来しながら、エフェクトのタイプや設定をさまざまに変更してみましょう。

スプリットを編成する

2つのレイヤーによるかんたんなスプリットを編成してみましょう。

- 1 ピアノとサンプルシンセ、それぞれ1つのレイヤーがオンになっていることを確認します。
- 2 **SPLIT [ON/SET ▼]** ボタンを押して、スプリット機能をオンにします。
- 3 スプリットポジションを調整するには、**SPLIT [ON/SET ▼]** ボタンを長押しして Keyboard Split — Split Position メニューを開き、**[PROGRAM]** ダイアルを回します。スプリットポジションは、鍵盤の上のLEDで示されます。

KEYBOARD SPLIT

Split Position

C4

- ④ **[SHIFT] + PIANO [KB ZONE]** を押して、ピアノレイヤーを **LO** に設定します。**[SHIFT] + SAMPLE SYNTH [KB ZONE]** を押して、サンプルシンセレイヤーを **HI** に設定します。これで、左側にピアノ、右側にサンプルシンセを備えたスプリットができました。

💡 **[OCTAVE SHIFT ◀ / ▶]** ボタンで、レイヤーごとにピッチをオクターブ単位でシフトできます。

💡 **[KB ZONE]** コントロールで **LO** と **UP** の両方をオンにすると、そのレイヤーはスプリットポジションの左右を問わず鍵盤全域で発音します。

スプリットにクロスフェードを適用する

最後のステップとして、ピアノからサンプルシンセへとサウンドが徐々に切り替わるようにしてみましょう。

- ⑤ **[SHIFT] + [X-FADE]** を 2 回押して、**X-FADE** を **2** に設定します。

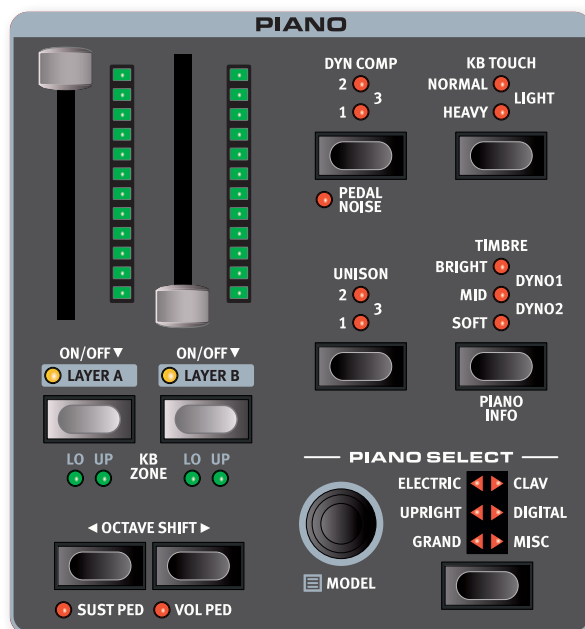
この設定でスプリットポジション付近を弾くと、左側のサウンドと右側のサウンドが「クロスフェード」します。

X-FADE が **2** の場合、鍵盤の上の LED は赤に点灯し、それぞれのサウンドはスプリットポジションの上下 12 半音を終端として、ゆるいカーブを描いてクロスフェードします。

X-FADE が **1** の場合、鍵盤の上の LED は黄色に点灯し、それぞれのサウンドはスプリットポジションの上下 6 半音を終端として、きついカーブを描いてクロスフェードします。

X-FADE がオフの場合、鍵盤の上の LED は緑に点灯します。

4 ピアノ



レイヤーのオン/オフとレベルの調整

ピアノセクションは、いずれかのレイヤーの **[ON/OFF ▼]** ボタンを押すことでオンにできます。レベルフェーダーでレイヤーそれぞれの出力レベルを調整します。

レイヤーボタンとエフェクトフォーカス

ピアノセクションには A と B、2 つのレイヤーがあります。もう片方のレイヤーも一緒にオンにするには、両方のレイヤーボタンを同時に押します。レイヤーをオフにするには、そのボタンを長押しします。

操作するレイヤーを切り替えるには、切り替える先のレイヤーボタンを押します。両方のレイヤーがアクティブになっているとき、そのうちどちらがフォーカスされているのかは、レイヤーボタン上部の LED の点滅によって示されます。

レイヤーボタンを押すとエフェクトセクションでもピアノがフォーカスされます。エフェクトフォーカスの状況は、エフェクトセクションにある **FX FOCUS** LED の点灯によっても示されます。

キーボードゾーン

[SHIFT] + [KB ZONE] を押すと、フォーカスされているピアノレイヤーをアクティブなキーボードゾーンのいずれかに割り当てることができます。レイヤーがどのゾーンに割り当てられているのかは **LO** と **UP**、2 つの緑色の LED によって示されます。スプリットの設定方法とキーボードゾーンの割り当ての詳細については、「キーボードスプリット設定」(12 ページ) をご参照ください。

オクターブシフト

[OCTAVE SHIFT ◀ / ▶] を押すと、ピアノレイヤーの音域をオクターブ単位でシフトします。ピアノレイヤーが鍵盤全体に割り当てられている場合は、1 オクターブ上下にシフトできます。ピアノレイヤーが狭いゾーンに割り当てられている場合は、利用可能なシフト幅が変わります。どちらの場合も、常にピアノの全音域にアクセスできます。

サステインペダルとボリュームペダル

[SHIFT] + [SUST PED] を押すと、フォーカスされているピアノレイヤーに対してサステインペダルが有効になります。ペダルの接続と設定の方法については、「Pedal メニュー」(12 ページ) をご参照ください。

[SHIFT] + [VOL PED] を押すと、フォーカスされているピアノレイヤーに対してボリュームペダルが有効になります。ボリュームペダルを使っているときにも、LED フェーダーはレイヤーの最大音量レベルを設定するコントロールとして、引き続き有効です。

ピアノサウンドについて

Nord Piano 6 のピアノは、Grand、Upright、Electric、Clav、Digital、そして Misc の、6 つのタイプに分類されます。各タイプは複数のモデルを持つことができます。新しいピアノサウンドは Nord Sound Manager を使用することで、Nord Piano 6 に追加できます。

Nord Piano 6 にはピアノサウンド用に 2 GB の内蔵メモリーが搭載されています。6 つそれぞれのタイプに対し厳選されたピアノコレクションが収録されているため、箱から出してすぐにこれらを楽しむことができます。これらはレスポンスやサウンドの微妙なニュアンスを捉えてオリジナルのモデルに可能な限り近づけるべく、手間を惜しまず開発されました。各ピアノはベロシティレベル別に細かくサンプリングされています。すべてのピアノモデルがオーセンティックなサウンドと感触を持つ理由のひとつは、このことにあります。

I Nord Sound Manager を使用してピアノサウンドを Nord Piano 6 にダウンロードすると、対応するタイプに自動的に配置されます。

プログラムが現在 Nord Piano 6 にダウンロードされていないピアノを参照している場合、タイプ LED が点滅し、ディスプレイには「Piano not found」と表示されます。この問題が発生した場合は、選択されている（またはその他の）タイプから別のモデルを探して代用する、Nord Sound Manager を使用して不足しているモデルを Nord Piano 6 にダウンロードする、のいずれかを行いましょう。

Nord Piano Library のファイルサイズについて

Nord Piano Library のサウンドは、最も多い場合、4 つの異なるファイルサイズで提供されています。グランドピアノとアップライトピアノにおける、サイズによる機能の違いを以下に示します。

	Sml	Med	Lrg	XL
詳細なベロシティマッピング	✓	✓	✓	✓
中音域のペダルストリングレゾナンス		✓		
全音域のペダルストリングレゾナンス			✓	✓
フルマッピング				✓

スモール（Sml）では、ペダルダウン時のストリングレゾナンスを含まないなど、ピアノメモリーの使用を最小限に抑えています。

ミディアム（Med）では、重要な中音域に限り、ペダルダウン時のストリングレゾナンスを含めています。

ラージ（Lrg）では、全音域にわたり、ペダルダウン時のストリングレゾナンスを含めています。

多くのピアノモデルではエクストララージ（XL）版が用意されています。XL ライブラリーでは鍵盤全体に「フルマッピング」されており、キーひとつひとつにオリジナルと同じ感触をもたらします。したがって、サイズもきわめて大きくなります。

□（訳注）「ペダルダウン時のストリングレゾナンス」は「ダンパーレゾナンス」と呼ばれることもあります。Med ライブラリーの説明における「中音域」とは、中央八を中心として上下におよそ 2 オクターブずつの範囲です。

ストリングレゾナンス

選択中の Nord Piano Library サウンドがサポートしている場合、これら 2 つの要素からなるストリングレゾナンス機能が常に有効になります。

- Med、Lrg、XL サイズのグランドピアノとアップライトピアノに含まれ、サステインペダルが押し下げられたときに有効になる、専用の「ペダルダウンサンプル」。これらは実際にサステインペダルを踏みこんだ状態でサンプリングされており、オリジナルの楽器の自然なアンビエンスと音響を捉えています。
- シミュレートによるストリングレゾナンス。後から打鍵された音の周波数によって既に押さえられているキーの弦に生じる、基音もしくは倍音での共鳴です。

ピアノサウンドを選択する

[PIANO SELECT] セレクターを押して、ピアノサウンドのタイプまたはカテゴリーを選択します。ピアノサウンドは次の 6 種類に分類されます。

タイプ	説明
Grand	アコースティックおよびエレクトリックのグランドピアノ
Upright	アップライトピアノ
Electric	Tine と Reed に基づくエレクトリックピアノ
Clav	クラビネットとハーブシコード
Digital	デジタルサウンドおよびレイヤーピアノ
Misc	その他のサウンド

PIANO SELECT [MODEL] ダイアルを使用して、先ほど選択したタイプの中から適当なピアノサウンドを選びます。**PIANO SELECT LED** は、現在選択されているピアノモデルのタイプを示します。プログラムビューモード（13 ページ）によっては、選択したモデルの名前がプログラムエリアのディスプレイに表示されます。



▶ Pearl Upright M
EP2 Ideal Timbre L

クラビネットについて

オリジナルのクラビネット D6 では、2 つのロックスイッチを押すことでさまざまなピックアップの組み合わせを選べました。Nord Piano 6 ではこの機能を忠実にシミュレートしており、オリジナルのクラビネット D6 同様にピックアップの組み合わせを選べます。

ピックアップの種類

- CA: 「ネック」側のピックアップのみを使います。暖かく、少し暗いサウンドです。
- CB: 「ブリッジ」側のピックアップのみを使います。明るいサウンドです。
- DA: 両方のピックアップを同相で使います。ふくやかなサウンドです。
- DB: 両方のピックアップを 180 度逆相で使います。基音がほとんど打ち消された、線の細いサウンドになります。

💡 クラビネットにはオリジナルのイコライザーオプションに由来した、固有のピアノティンバー設定が用意されています。詳しくは「クラビネットの設定」（15 ページ）をご参照ください。

リストビュー

[SHIFT] を押しながら **PIANO SELECT [MODEL]** を回すことで、ピアノサウンドをリストビューで検索することができます。

画面の最上段には現在のタイプ名（この例では「Grand」）、タイプに含まれるモデルの総数（この例では 9）、および現在選択されているモデルのインデックス番号（この例では 3）が表示されます。

 Piano	Grand	3/8
White Grand		XL
Royal Grand 3D		XL
Soft Grand		L
Velvet Grand		L
Grand Imperial		L

リストビューでは、ハイライトで示された現在選択されているモデルと、その前後のモデルが表示されます。

キーボードタッチ



Nord Piano Library のピアノはその多くが非常に広いダイナミックレンジを持っています。好みや演奏上の要求に応じて、このレスポンスは調整することができます。

HEAVY では、ソフトかつ表情豊かな演奏に向けた重めのピアノアクションになります。**[KB TOUCH]** を押して **MEDIUM** や **LIGHT** を選ぶと、軽いタッチでラウドな演奏ができるようになります。

ダイナミックコンプレッション



[DYN COMP] ボタンでアクセスできる「ダイナミックコンプレッション」は、ピアノサウンドの最小レベルを「底上げ」し、ダイナミックレンジを減らす機能です。**1~3** の3段階で設定でき、**3** で最も圧縮率が高くなります。この機能は、非常にソフトに演奏したりダイナミックに演奏したりする場合でも聴き取りやすさを維持するのに役立ちます。音色のダイナミックレンジはそのまま残ります。

📍 エフェクトセクションの中にあるコンプレッサー (Comp)、すなわちサウンドのトランジェントに影響を与えるエフェクターとは異なり、ダイナミックコンプレッション機能はサウンドのキャラクターまでは変更しません。

ペダルノイズ

Nord Triple Pedal や Nord Single Pedal 2 など、対応するペダルが Nord Piano 6 に接続されている場合、**[SHIFT] + [DYN COMP]** で **PEDAL NOISE** 機能が利用できます。ペダルノイズが有効にされると、アコースティックピアノやエレクトリックピアノのサステインペダルを踏んだときに発生する機構上のノイズが再現されます。ペダルノイズは、サステインペダルを踏み込む勢いにダイナミックに反応します。

ペダルノイズのレベルは Sound メニューで調整できます。詳しくは「3 – Piano Pedal Noise Level」(30 ページ) をご参照ください。

❗ 選択したピアノがペダルノイズに対応していない場合、機能は無効になります。

Nord Triple Pedal

Nord Piano 6 は Nord Triple Pedal (Nord TP-1) および Nord Triple Pedal 2 (Nord TP-2) に対応しています。Nord TP-2 は **TRIPLE PEDAL** 端子に接続します。

📍 Nord Triple Pedal (Nord TP-1) は **SUSTAIN PEDAL** 端子に接続します。

Nord Triple Pedal は 1 つのユニットに 3 つのペダルを備えており、これを使うことで Nord Piano 6 のピアノセクション内の追加機能と、その他の多くの便利機能にアクセスすることができます。これらの設定については「Pedal メニュー」(31 ページ) をご参照ください。

Nord TP-2 を専用端子に接続する場合、追加の設定は必要ありません。サステインペダル端子に接続するタイプのペダルの場合、Pedal メニューの Sustain Pedal Type 設定で、使用しているタイプまたはモデルが選ばれていることを確認してください。

❗ Nord TP-1 と TP-2 の両方が Nord Piano 6 に接続されている場合、TP-1 の左側と中央のペダルは機能しなくなります。ペダルメニューにおいても、「Sustain Only」と表示されます。

サステインとハーフペダル

右側のペダルは常にサステインペダルとして機能します。Nord Triple Pedal では Nord Sustain Pedal 2 (Nord SP-2) と同様に、ペダルを半分だけ踏む「ハーフペダル」テクニックを使えます。この場合、仮想ダンパーは半分だけ上がった状態となり、離鍵後の音の立ち下がりが緩やかなものになります。

ソステヌート

デフォルトでは、Nord Triple Pedal の中央のペダルはソステヌートペダルとして機能します。ソステヌートペダルを使うと、他の音をそのままにしながら、特定の音だけを延ばすことができます。ペダルが踏まれた時点で押されていたキーは音が持続する一方、ペダルを踏んでいる間に新たに演奏された音は延ばされません。

📍 中央のペダルには多数のオプション機能があります。詳しくは「3 – Triple Pedal Function」(14 ページ) をご参照ください。

ソフトペダル

デフォルトでは、Nord Triple Pedal の左側のペダルはソフトペダルとして機能します。ソフトペダルはウナコルダとも呼ばれます。ソフトペダルを踏み込んでいる間は、演奏されるすべての音の音量がわずかに小さくなり、トーンも少し落ち着いたものになります。

📍 左側のペダルにも多数のオプション機能があります。詳しくは「3 – Triple Pedal Function」(14 ページ) をご参照ください。

ティンバー



[TIMBRE] セレクターを押すと、ピアノサウンドの周波数特性とキャラクターを素早く変更できます。

オプションとその効果は、ピアノサウンドに応じて、次のように変わります。

アコースティックピアノのティンバー設定

SOFT 設定は高周波成分を減衰させ、ローエンドを強調することにより、サウンドにしっとりとした質感をもたらします。

MID 設定では高域と低域はそれほど出さず、中域にフォーカスしたふくよかなサウンドが得られます。

BRIGHT 設定は中高域を強調し、明るくきらびやかなサウンドを生み出します。

エレクトリックピアノのティンバー設定

エレクトリックピアノが選択されているときは、ティンバー設定もこれらのサウンドに合わせて特別に調整されます。

SOFT 設定は高域とメタリックな質感を削り、サウンドの芯を残します。

MID 設定は中高域をブーストし、サウンドに鋭い存在感を加えます。

BRIGHT 設定は中域をブーストしてきらびやかさとトレブル感を増すことで、ピアノサウンドに存在感と鮮やかさを与えます。

DYNO 1 と **DYNO 2** はどちらも、1970 年代から 1980 年代初頭にかけて流行した、Tine ベースのエレクトリックピアノに対するプリアンプとイコライザーの改造に基づいた設定です。どちらの設定も、エレクトリックピアノが持つ「ベル」サウンドを大幅に強化します。特に Dyno 2 セッティングでは低域もブーストされた、「ドンシャリ」サウンドが得られます。

クラビネットの設定

オリジナルのクラビネットは 4 つのロッカースイッチで内蔵イコライザーをコントロールしていました。これらのスイッチによって生まれる組み合わせのほとんどが、Nord Piano 6 でも利用可能です。

選べる設定は次の通りです。

- ・ Soft
- ・ Treble
- ・ Soft+Treble
- ・ Brilliant
- ・ Soft+Brilliant
- ・ Treble+Brilliant
- ・ Soft+Treble+Brilliant

ピアノサウンドの情報を確認する

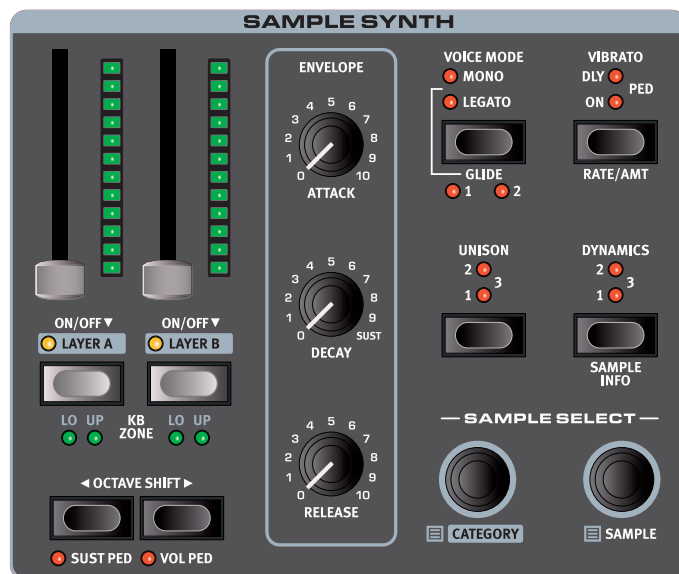
[SHIFT] + [PIANO INFO] を押すと、バージョン番号や正確なサイズといった、現在選択されているモデルに関するいくつかの追加情報が表示されます。

ユニゾン



UNISON 機能は隣接するキーからトランスポーズして作られたボイスを使用して、ステレオユニゾン効果を生み出します。これは、エレクトリックピアノなどのモノラルソースをステレオに広げたり、アコースティックピアノにコーラスのようなきらめきを追加したりするために使えます。最も強い設定ではより大きくデチューンがかかります。ユニゾンの強さは微妙なステレオ効果から明らかなデチューニングまで、3 段階で設定できます。

5 サンプルシンセ



レイヤーのオン/オフとレベルの調整

サンプルシンセクションは、いずれかのレイヤーの **[ON/OFF ▼]** ボタンを押すことでオンにできます。レベルフェーダーでレイヤーそれぞれの出力レベルを調整します。

レイヤーボタンとエフェクトフォーカス

サンプルシンセクションには A と B、2 つのレイヤーがあります。もう片方のレイヤーも一緒にオンにするには、両方のレイヤーボタンを同時に押します。レイヤーをオフにするには、そのボタンを長押しします。

操作するレイヤーを切り替えるには、切り替える先のレイヤーボタンを押します。両方のレイヤーがアクティブになっているとき、そのうちどちらがフォーカスされているのかは、レイヤーボタン上部の LED の点滅によって示されます。

レイヤーボタンを押すとエフェクトセクションでもサンプルシンセがフォーカスされます。エフェクトフォーカスの状況は、エフェクトセクションにある **FX FOCUS** LED の点灯によっても示されます。

キーボードゾーン

[SHIFT] + [KB ZONE] を押すと、フォーカスされているサンプルシンセレイヤーをアクティブなキーボードゾーンのいずれかに割り当てることができます。レイヤーがどのゾーンに割り当てられているのかは **LO** と **UP**、2 つの緑色の LED によって示されます。スプリットの設定方法とキーボードゾーンの割り当ての詳細については、「キーボードスプリット設定」（16 ページ）をご参照ください。

オクターブシフト

[OCTAVE SHIFT ◀ / ▶] を押すと、サンプルシンセレイヤーの音域をオクターブ単位でシフトします。サンプルシンセレイヤーが鍵盤全体に割り当てられている場合は、1 オクターブ上下にシフトできます。サンプルシンセレイヤーが狭いゾーンに割り当てられている場合は、利用可能なシフト幅が変わります。どちらの場合も、常にサンプルシンセの全音域にアクセスできます。

サステインペダルとボリュームペダル

[SHIFT] + [SUST PED] を押すと、フォーカスされているサンプルレイヤーに対してサステインペダルが有効になります。ペダルの接続と設定の方法については、「メニュー」（16 ページ）をご参照ください。

[SHIFT] + [VOL PED] を押すと、フォーカスされているサンプルシンセレイヤーに対してボリュームペダルが有効になります。ボリュームペダルを使っているときにも、LED フェーダーはレイヤーの最大音量レベルを設定するコントロールとして、引き続き有効です。

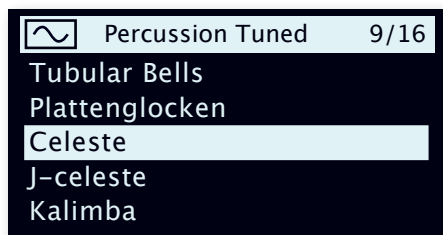
サンプルインストゥルメントを選択する

[CATEGORY] ダイアルは、カテゴリーの選択に使います。ダイアルを回すと、ディスプレイにヒントが表示されます。

[SAMPLE] ダイアルを使って、カテゴリーの中からサンプルインストゥルメントを選択します。ディスプレイにはサンプルごとのロケーション番号と名前が表示されます。

リストビュー

[SHIFT] を押しながら **[CATEGORY]** ダイアルや **[SAMPLE]** ダイアルを回すと、サンプルインストゥルメントの選択にリストビューを使えます。



サンプルインストゥルメントの音作り

Nord Piano 6 には、ロードしたサンプルインストゥルメントのサウンドやふるまいを微調整するさまざまな手段が用意されています。それぞれのサンプルインストゥルメントには、いくつかのパラメーターに対するプリセット値が保存されており、これらはサンプルインストゥルメントが選択されたときに自動的にロードされます。すべてのパラメーターは、手動で調整することもできます。

ダイナミクス

[DYNAMICS] ボタンを押すと、サンプルインストゥルメントのペロシティレスポンスが変化します。

ダイナミクスには 3 段階の設定があります。値を大きくするほど、サウンドはより広いダイナミックレンジを持つようになります。設定をオフにすると、フィルターのプリセット値を含む、すべてのパラメーターのペロシティ制御が非アクティブになります。

サンプルサウンドの情報を確認する

[SHIFT] + [SAMPLE INFO] を押すと、フルネームや正確なサイズといった、現在選択されているサンプルに関するいくつかの追加情報が表示されます。

エンベロープ

[ATTACK]、**[DECAY/SUSTAIN]**、および **[RELEASE]**、これら 3 つのノブを使うことで、エンベロープつまりサウンドの時間経過に伴う音量の変化を設定できます。

[ATTACK] ノブは、最大レベルに達するまでの時間をコントロールします。

[DECAY/SUSTAIN] ノブは、キーが押し下げられ続ける間どのくらいの速さでサウンドを減衰させるかをコントロールします。ノブを右に振り切るとエンベロープがサステインモードになり、サウンドはキーが押し下げられ続ける間、減衰することなく発音を続けるようになります。

[RELEASE] ノブは、キーを放した後どのくらいの速さで減衰させるかをコントロールします。

モノ/レガート

モノ (**MONO**) モードおよびレガート (**LEGATO**) モードでは、従来のモノフォニックシンセサイザーと同様に、一度に 1 つの音のみを発音します。モノモードでは新たな打鍵のたびにアタックから発音(リトリガー)します。レガートモードではいったんすべてのキーを放すまで(「ノンレガート」な打鍵が入力されるまで)リトリガーしません。

もうひとつの違いは、レガートモードではレガートで演奏する場合にのみグライドが有効になることです。つまり、レガートモードでグライド効果を得るには、前のキーを放す前に新しいキーを押す必要があります。

MONO と **LEGATO** の LED がいずれも点灯していない場合は、そのシンセレイヤーはデフォルト通りポリフォニックで発音します。

グライド

グライド (**GLIDE**) をアクティブにすると、先に弾いた音から後に弾いた音へピッチを滑らかに「グライド」させます(より一般的には「ポルタメント」とも呼ばれます)。グライド機能はモノモードとレガートモードでのみ使用できます。

グライドには 3 段階の設定があります。値を大きくするほど、グライドにかかる時間が増加します。

ユニゾン

ユニゾン (**UNISON**) 機能はアンサンプルのようなサウンドを生成します。これは、隣接するサンプルをもとに、わずかにデチューンしながらステレオにパンニングしたものを複数組み合わせることで実現されています。

ユニゾンには 3 段階の設定があります。値を大きくするほど、デチューンの幅とステレオの拡がりが増加します。

ビブラート

[VIBRATO] ボタンを押すことに、ビブラート設定が切り替わります。

ON 設定では、ビブラートは打鍵した瞬間からかかります。

DLY (delay) 設定では、ビブラートは打鍵して一定の時間を経過してからかかります。ディレイタイムは **RATE/AMT** メニューで設定します。

PEDAL 設定では、ビブラートをかけるかどうかは Nord Piano 6 に接続したペダルでコントロールされます。これには Nord Triple Pedal の左側のペダルと中央のペダル、および **FOOT SWITCH** 端子に接続したペダルを使用できます。この機能の詳しい使い方については、「Pedal メニュー」(17 ページ) をご参照ください。

ビブラートメニュー

[SHIFT] + [RATE/AMT] を押すと、ビブラートの周期 (**Rate**)、強さ (**Amount**)、およびディレイタイム (**Delay**) を設定する Vibrato メニューが表示されます。それぞれのパラメーターには、画面下部のラベルに対応する **PROGRAM** ボタンを押すことでアクセスできます。

Rate オプションは 2 Hz から 8 Hz まで、**Amount** オプションは 0 から 10 まで、**Delay** オプションは 0.2 s から 2.0 s までの間で設定できます。

i サンプルインストゥルメントをロードする時には、**Vibrato Rate** パラメーターと **Vibrato Amount** パラメーターについても、保存されたプリセット値が復元されます。

ビブラートボタン



フロントパネル左端にある **[VIBRATO]** ボタンを押すと、Vibrato メニューの設定に基づくビブラートを、手動でリアルタイムにかけることができます。

[SHIFT] + [ENABLE] を押すと、この機能をレイヤーごとにオン/オフできます。スプリット構成などで単一のレイヤーでのみビブラートボタンを使いたい場合に便利です。

6 プログラム



フロントパネルの中央に位置するプログラムセクションは、プログラムのロードとストア、ライブモード、スプリット機能といった、パフォーマンスにまつわるさまざまな機能へのアクセスを提供します。

ここにはシステム、サウンド、MIDI、およびその他の設定を行うためのさまざまなメニューもあります。メニューとその設定の詳細については、「メニュー」（18 ページ）をご参照ください。

トランスポーズ



Nord Piano 6 は、プログラムごとに ± 6 半音の範囲、半音刻みでトランスポーズできます。トランスポーズを適用するには、**TRANSPOSE [ON/SET ▼]** ボタンを長押しして Transpose メニューを開き、**[PROGRAM]** ダイアルを回します。トランスポーズを非アクティブにするには、ボタンをもう一度押します。

トランスポーズ はプログラムの一部としてロード/ストアされ、常にプログラムのすべてのレイヤーに影響します。

💡 どのプログラムを選んでいるときにも同じトランスポーズを適用したい場合には、System メニューの Global Transpose 設定を使用します。

スプリット

Nord Piano 6 の鍵盤は 2 つのゾーンに分割し、それぞれのピアノレイヤーとサンプルシンセレイヤーを自由に割り当てることができます。これにより、さまざまなレイヤーサウンドおよびスプリットサウンドを編成することができます。

キーボードスプリット設定

KB SPLIT [ON/SET ▼] ボタンを押すと、スプリット機能がアクティブになります。ボタンを長押しすると Keyboard Split — Split Position メニューが開きます。

スプリットポジションを調整する

[PROGRAM] ダイアルを回すと、10 か所あるスプリットポジションのうちどれを使うかを選べます。スプリットポジションは、鍵盤の上の LED で示されます。

KEYBOARD SPLIT

Split Position
C4

スプリットにクロスフェードを適用する

通常、2つのキーボードゾーンは完全に分断されており、それぞれのゾーンのサウンドが重なることはありません。X-Fade (cross-fade) 設定をアクティブにすると、スプリットポジション付近でそれぞれのゾーンのサウンドが「クロスフェード」され、ポジションをまたいだ演奏がよりスムーズになります。

[SHIFT] + [X-FADE] を押すことに、X-Fade 設定が切り替わります。

オフの場合、クロスフェードは行われません。

1 設定の場合、スプリットポジションから ± 6 半音の範囲でクロスフェードします。左側のサウンドはポジションより高い 6 半音、右側のサウンドはポジションより低い 6 半音にわたってフェードアウトします。

2 設定の場合、スプリットポジションから ± 12 半音の範囲でクロスフェードします。

ストア



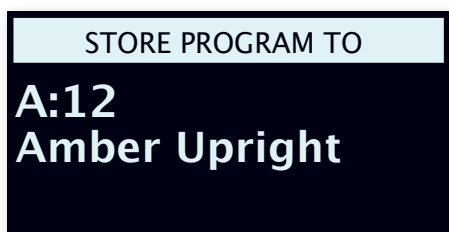
[STORE] ボタンは、編集したプログラムをプログラムバンクにストアする時に使用します。プログラムをストアすると、選択したロケーションにある既存のデータが上書きされます。

1 工場から出荷されたばかりの Nord Piano 6 は、プログラムが誤って上書きされることを避けるため、メモリーに保護をかけられています。プログラムをストアできるようにするには、System メニューで Memory Protect 設定をオフにする必要があります。詳しくは「System メニュー」(19 ページ) をご参照ください。

プログラムをストアする

プログラムまたはプリセットを名前を変更せずにストアするには、次の手順を実行します。

1 [STORE] ボタンを 1 回押します。LED が点滅し始め、ディスプレイにプログラムの名前とその場所が表示されます。



2 [PROGRAM] ダイヤルと [PAGE < / >] ボタンのどちらか、あるいは両方を使用して、ストア先のロケーションを選択します。

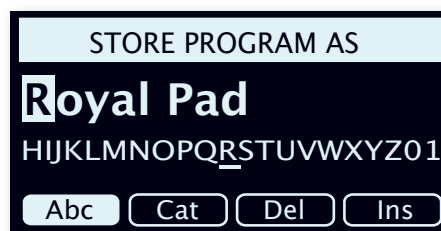
1 スタ操作をキャンセルするには、[EXIT] ボタンを押します。

3 もう一度 [STORE] を押して操作を完了します。

名前を付けてストアする

1 プログラムに名前を付けてストアするには、[SHIFT] + [STORE AS...] を押します。

2 ABC ソフトボタンを押し続ける間、英数字の行が表示されます。その間にダイヤルを回すと、現在の位置の文字を選択できます。ボタンを放すとカーソルが次の位置に移動します。ダイヤルまたは [PAGE < / >] ボタンを使って、カーソルを自由に移動できます。Ins ソフトボタンは現在位置に空白を挿入するため、Del ソフトボタンは現在選択されている文字を削除するために使用します。



3 プログラムをカテゴリーに分類しておくと、後から検索する際に便利です。Cat ソフトボタンを押して、リストからカテゴリーの 1 つを選択します。

4 [STORE] ボタンを押すと、Store Program To 画面が表示されます。[PROGRAM] ダイヤルと [PAGE < / >] ボタンのどちらか、あるいは両方を使用して、ストア先のロケーションを選択します。

5 もう一度 [STORE] を押して操作を完了します。

🔍 Nord Sound Manager でもプログラムに名前を付けることができます。

シフトボタン



多くのボタンといくつかのノブには、[SHIFT] を押しながらボタンを押したりノブを回したりすることでアクセスできる二次機能があります。シフト機能がある場合、対応するボタンやノブの下にはその機能の名前が印刷されています。たとえば、[SHIFT] を押しながら PROGRAM [3] ボタンを押すと、Sound メニューが開きます。

Shift ボタンは [EXIT] ボタンとして、メニューを閉じたり操作をキャンセルしたりする時にも使います。

ライブモード



Nord Piano 6 には、アクセスしやすい「ライブプログラム」用のロケーションが 6 つあります。ライブプログラムは、レギュラープログラムと異なり、編集内容が即座に保存されます。ライブプログラムを終了したり、Nord Piano 6 の電源をオフにしたりしても、すべての編集内容が保存されます。手動で保存操作を行う必要はありません。ライブプログラムを選択するには、[LIVE MODE] を押してから、PROGRAM [1] ~ [6] のいずれかのボタンを押します。

ライブプログラムは必要に応じて、ライブプログラム用の 6 つから離れ、レギュラープログラムバンクの適当なロケーションを選んでストアすることができます。反対に、レギュラープログラムをライブプログラムのロケーションにストアすることもできます。

ニューメリックパッドモード

プログラムの選び方には、デフォルトの「ページ単位」モードと、[SHIFT] + [NUM PAD] を押すと有効になる「ニューメリックパッド」モードの、2 つの異なるオプションがあります。

ニューメリックパッドモードでは、PROGRAM [1] ~ [6] は現在のページ上の 6 つのプログラム間で直接切り替えるためではなく、現在のバンク全体における任意の (11 から 66 までの) プログラム番号を入力するために使われます。

例えば、現在のバンク内のプログラム 12 を選択するには、先に **PROGRAM [1]** を押し（ページ 1 を指します）、次いで **PROGRAM [2]** を押します（現在のページの中のプログラム 2 番を指します）。

なお、**[PAGE ◀ / ▶]** ボタンと **[PROGRAM]** ダイアルは、モードに関係なく同じように機能します。また、ライブプログラムは常にプログラムボタンを使用して直接選択します。



この例は **PROGRAM [1]** が押された様子です。ダッシュ記号はその箇所にもう 1 桁入力できることを示しています。

プログラムビューモード

[SHIFT] + [PROG VIEW] を押すごとに、ディスプレイの表示モードが切り替わります。デフォルトではプログラム名と番号のみが表示され、ディスプレイの下半分はパネルを操作したときヒントを表示するために確保されたままとなります。

もう 1 つの表示モードでは、プログラム名と番号は小さく表示され、ディスプレイの下半分はそれぞれのレイヤーで選択されているサウンド名を表示するために使われます。この場合でもパネルを操作した時のヒントは通常通り表示されます。

パニック

[SHIFT] + [PANIC] を押すと、音源の内部に「オールノートオフ」MIDI メッセージが送られ、サステインペダルがリセットされます。これは、MIDI パフォーマンスやライブパフォーマンスの途中で音が止まらなくなった場合、またはほかの理由ですべてのサウンドをすぐに止める必要が生じた場合に使用できます。

プログラムボタン

6 つのプログラム（**PROGRAM**）ボタンを使用すると、現在のプログラムバンク内の 6 つのプログラムへ即座にアクセスできます。2 から 5 までのプログラムボタンは、メニューや設定の項目を選ぶソフトボタンとしても使用します。詳しくは、「ソフトボタン」（8 ページ）をご参照ください。

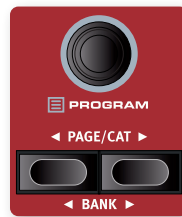
プログラムとは

プログラムには、どのピアノサウンドを使っているか、どのサンプルサウンドを使っているかといった参照情報や、パネルで操作できるうちマスターレベルを除くほとんどのすべての設定が含まれます。System メニュー、Sound メニュー、MIDI メニュー、および Pedal メニューの設定は、プログラムに含まれません。

メニュー

[SHIFT] を押しながら **PROGRAM [2]** を押すと System メニュー、**[SHIFT]** を押しながら **PROGRAM [3]** を押すと Sound メニュー、**[SHIFT]** を押しながら **PROGRAM [4]** を押すと MIDI メニュー、**[SHIFT]** を押しながら **PROGRAM [5]** を押すと Pedal メニューが開きます。メニューとすべての設定項目については「メニュー」（29 ページ）をご参照ください。

プログラムダイアル

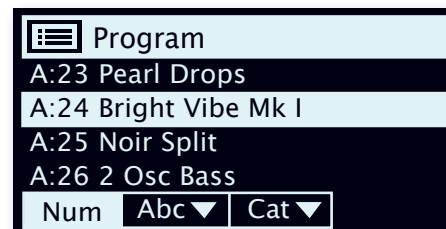


プログラム（**PROGRAM**）ダイアルは主にプログラムの選択に使います。また、パラメーターの値を設定したり、プログラム名を入力するときに文字を選んだりする時にも使います。**[SHIFT]** を押しながらダイアルを回すと、プログラムリストが開きます。

プログラムリストとソート

デフォルトの **Num** ソートが選ばれている場合、プログラムは番号順で表示されます。**Abc** ソフトボタンを押すと名前順、**Cat** ソフトボタンを押すとカテゴリー別での表示になります。

特定の頭文字またはカテゴリーを持つ最初のプログラムにジャンプするには、**Abc** ソフトボタンまたは **Cat** ソフトボタンを押しながらダイアルを回します。



i 選んだソートモードは記憶され、次にリストビューを開いたときに復元されます。

ページ、カテゴリー、およびバンク

[PAGE ◀ / ▶] ボタンを押すと、プログラムを「ページ」単位で遷移できます。1 つのページには、6 つのプログラムが含まれます。

[SHIFT] + [BANK ◀ / ▶] を押すと、プログラムを「バンク」単位で遷移できます。1 つのバンクには、6 つのページが含まれます。

プログラムリストを開いている時に Page ボタンを押すと、その時のソートモードによって、プログラムを名前やカテゴリーの区切りで遷移できます。

イニシャライズ

[SHIFT] + [PROG INIT] を押すと、プログラムを単一のピアノレイヤーのみの構成にイニシャライズできます。新しく音作りを始めるためすばやく初期状態に戻したい時に役立ちます。

プログラムを整頓する

プログラムの順序は、オーガナイズビューの 2 つの機能、**Swap** と **Move** で並べ替えることができます。

オーガナイズビューに入る

[SHIFT] + [ORGANIZE] を押すと、オーガナイズビューに入ります。

2つのプログラムを入れ替える

スワップ操作は2つのプログラムのロケーションを入れ替えます。

- 1 ダイアルを使用して、別のプログラムと交換したいプログラムを選択し、**Swap**を押します。
- 2 ダイアルを使用して交換先を選び、**Ok**を押すと、操作が完了します。**Undo**を押すと操作はキャンセルされます。

プログラムを移動する

- 1 ダイアルを使用して別のロケーションへ移動したいプログラムを選択し、**Move**を押します。
- 2 ダイアルを使用して移動先を選び、**Ok**を押すと、操作が完了します。**Undo**を押すと操作はキャンセルされます。

△ 移動するプログラムの現在の場所と移動先の場所の間にあるプログラムは1つずつ上または下にシフトされます。このため1つのページが含む内容も変わることにご注意してください。

i これらの操作は *Nord Sound Manager* で行うこともできます。

MIDI LED インジケーター

 Nord Piano 6 が **MIDI IN** 端子や **USB** 接続を通じて MIDI メッセージを受信すると、Master Level ノブの真下にある **MIDI** LED が点滅します。

7 エフェクト



概要

Nord Piano 6 ではピアノ A/B とシンセ A/B それぞれのレイヤーに個別のエフェクトチェーンを搭載しています。

唯一の例外はグローバルリバーブ（**GLOBAL REVERB**）エフェクトです。その名前が示す通り、プログラム内のすべてのレイヤーで共有されます。ただし、**[SHIFT] + [LAYER SEND]** を押して「レイヤーセンド」モードをアクティブにすると、ドライ/ウェット比をレイヤーごとに設定できるようになります。

エフェクトとグローバルモードのオン/オフ

エフェクトをアクティブにするには、それぞれのエフェクトの **[ON]** ボタンを押します。

イコライザー、コンプレッサー、およびディレイでは **[SHIFT] + [GLOBAL]** を押すことで、すべてのピアノレイヤーとサンプルシンセレイヤーの間で同じエフェクトの設定を共有するグローバルモードを使えます。グローバルモードにより揃えられたパラメーターは、モードをオフにしても手動で変更されるまでその値を維持します。

FX On ボタンとエフェクトフォーカス



[FX ON] ボタンを押すと、すべてのエフェクトユニットを一斉にオン/オフできます。新しく音作りを始めるときや、ドライ音のみでモニタリングする必要があるときに役立ちます。



ピアノまたはサンプルシンセの **[ON]** ボタンを押すと、選んだレイヤーに応じて、レイヤーエフェクトセクションのフォーカスも自動的に追従します。

FX FOCUS [PIANO] ボタンまたは **[SYNTH]** ボタンを押して、特定のレイヤーを直接フォーカスしてエフェクトを編集することもできます。現在フォーカスされているレイヤーは、**FX FOCUS LED** で示されます。

グループ

[SHIFT] + [GROUP] を押すと、ピアノ A とピアノ B、またはシンセ A とシンセ B を、1 つのグループにできます。グループモードでは同じセクションにある 2 つのレイヤーエフェクトがリンクされ、すべての操作が両方のレイヤーに反映されるようになります。同じエフェクト設定を使ったレイヤーサウンドを作成するときに便利です。

モジュレーション 1

モジュレーション 1（**MOD 1**）ユニットでは、6 種類の変調系エフェクトが提供されます。これらはセクターボタンを使用して切り替えます。**[RATE]** ノブはモジュレーションの周期（速さ）、**[AMOUNT]** ノブはエフェクトの強さまたは深さのコントロールに使用します。



コントロールペダル

すべての Mod 1 エフェクトはエクスプレッションペダルによるコントロールに対応しています。操作に対応しているパラメーターは、トレモロとパンでは Amount、スピン、ワウ、リングモジュレーターでは Rate です。

エクスプレッションペダルを使うには、**CTRL/VOL PEDAL** 端子にエクスプレッションペダルを接続し、**[SHIFT] + [CTRLPED]** を押します。

トレモロ

トレモロ（**TREM**）は、出力信号のボリュームを連続的かつ周期的に変化させる変調です。トレモロはエレクトリックピアノで使用される非常に一般的なエフェクトです。

パン 1 & パン 2

パン 1 (**PAN 1**) は、ステレオパノラマの左と右の間で音像をスムーズに動かす、パンニングに対する自動変調です。

パン 2 (**PAN 2**) は、よりハードなパン波形を使った、クラシックなエレクトリックピアノの「ビブラート」のようなキャラクターを提供します。

スピン

スピン (**SPIN**) は回転スピーカーのサウンドをエミュレートします。このエフェクトはあらゆる音源に動きを与えるのに便利です。回転の速度は **[RATE]** ノブで制御しますが、値を変更してもすぐには追従せず、回転の速度は徐々に上下します。

ワウ

ワウ (**WAH**) は、幅広い帯域にわたってフィルター周波数をスイープすることにより「ワウワウ」といった特徴的なサウンドをもたらす、強いレゾナンスを持ったローパスフィルターの一種です。エレクトリックピアノやクラビネットとの相性にすぐれています。

フィルター周波数は **MOD 1 [RATE]** ノブで調整できます。スイープ中には、フィルターの特性も変化します。

デフォルトでは、信号の振幅を自動で検出してフィルターのスイープ幅を調整します。このため、演奏の強弱に合わせたワウ効果が得られます。

🔊 このエフェクトはコントロールペダル (**CTRLPED**) モードにすることで、従来のペダルワウとしても使えます。

リングモジュレーション

リングモジュレーション (**RM**) は、2 つの信号を掛け合わせて、非整数倍音による「ベルのような」サウンドを生み出す、変調の一種です。Nord Piano 6 では、演奏したサウンドにサイン波を掛け合わせます。

[RATE] ノブはサイン波のピッチのコントロールに使用します。

モジュレーション 2

モジュレーション 2 (**MOD 2**) ユニットでは、フェイザー、フランジャー、コーラス、バイブといった変調系エフェクトが提供されます。これらはセレクターボタンを使用して切り替えます。**[RATE]** ノブはモジュレーションの周期 (速さ)、**[AMOUNT]** ノブはエフェクトの強さまたは深さのコントロールに使用します。



エフェクトをモノラル仕様で使う

デフォルトではすべての Mod 2 エフェクトがステレオ仕様です。**[SHIFT] + [MONO]** を押すと、モノラル仕様に変更されます。

フェイザー 1 & フェイザー 2

フェイザー (**PHASER**) は、エレクトリックピアノでたびたび使われる、特徴的な「シュワシュワ」サウンドを生み出します。

Nord Piano 6 に搭載されているフェイザーのデジタルモデリングは、「Bi-Phase」や「Small Stone」といったクラシックなユニットに基づいています。

フランジャー

フランジャー (**FLANGER**) は、コムフィルター効果による、「ビューン」といった劇的なサウンドとレゾナンス特性を生み出します。

コーラス 1 & コーラス 2

コーラス 1 (**CHORUS 1**) は、オーディオ信号に、変調をかけたコピーを複数ブレンドするエフェクトです。サウンドを「広げる」効果を得る以外にも、極端な設定で大幅なデチューンを作り出すなど、さまざまな使い方ができます。

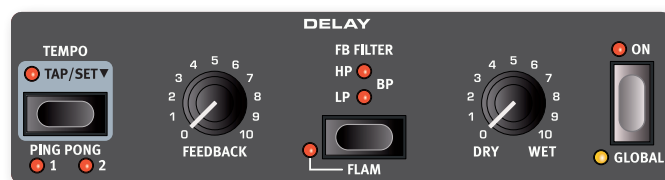
コーラス 2 (**CHORUS 2**) は、ピンテージエフェクトペダルに基づいています。デフォルトのステレオモードでは (特に Rate と Amount を小さく設定した場合に、) 豊かなステレオワイドニングを得られます。Rate と Amount を大きく設定したときには (特にモノラルモードと組み合わせた場合に、) 独特のビブラート特性を得られます。

バイブ

バイブ (**VIBE**) はピッチベンドとフェイザーの両方の特性を持つサウンドを生み出します。これはクラシックなフットペダルエフェクトに基づいており、一般的なフェイザーと異なり多段で配置された、一連のフェイジングフィルターをモデリングしています。

ディレイ

ディレイ (**DELAY**) ユニットはエコー/リピートの効果を生み出します。ディレイタイムは **TEMPO [TAP/SET ▼]** ボタンをタップする、またはボタンを長押ししてから **[PROGRAM]** ダイアルを回すことで設定します。



[FEEDBACK] ノブはディレイのリピート数、タップ数をコントロールします。最小の設定ではタップが 1 つだけ聞こえ、最大の設定では非常に長いフィードバックテールを形作ります。

[DRY/WET] ノブは、ドライな信号とディレイの繰り返しとのバランスを調整します。

[SHIFT] + [GLOBAL] を押してディレイをグローバルモードに設定すると、すべてのレイヤーに同じディレイ設定が適用されます。

ピンポンディレイ

[SHIFT] + [PING PONG] を押すとピンポンモードがアクティブになります。ピンポンモードでは、ディレイ音は左と右で交互に生成されます。短いディレイタイムを使用すると、これらのリピートは「左右非対称」になり、リバースユニットの初期反射音に似たディレイを生み出します。

ピンポンモードには 3 段階リピート設定があります。値を大きくするほど、ディレイ音のステレオ幅が広がります。

フィードバックフィルター

フィードバックフィルター（**FB FILTER**）は、ディレイ音を仕上げるためのすぐれたツールです。これは特にディレイのフィードバック量が多い場合に、より活躍します。各ディレイタップはフィードバックすることにフィルターを通過し、その結果、ディレイ音は徐々に「こもったり」、徐々に「乾いたり」しながら後に連なることになります。

LP 設定では、各ディレイタップはフィードバックすることにローパスフィルターを通過し、そのたびに高周波成分が減衰します。

HP 設定では、各ディレイタップはフィードバックすることにハイパスフィルターを通過し、そのたびに低周波成分が減衰します。これは、長いディレイテールの音の濁りを低減するのに役立ちます。

BP 設定では、各ディレイタップはフィードバックすることにバンドパスフィルターを通過し、そのたびに高周波成分と低周波成分が減衰します。その結果、細いサウンドになります。

フラム

フラム（**FLAM**）は、左右のチャンネルでディレイタイムにオフセットを備えたステレオディレイを生成します。ディレイタイムを短くするとルーム残響のシミュレーションに、長いディレイタイムを使うと複雑なサウンドの作成に、それぞれ使えます。

ピンポンモードと組み合わせると、フラムエフェクトは左右のタップごとに複数のリピート音を生成します。

タップテンポ

ディレイタイムはタップテンポでも設定できます。テンポは、bpm (beats per minute) 値とミリ秒単位の両方で表示されます。同期させたいテンポに合わせて **[TAP/SET ▼]** ボタンを何度か押すだけで、ディレイタイムが自動的に調整されます。

テンポの検出には最低 2 回のタップを必要とします。テンポを微調整するために、それ以上タップすることもできます。

イコライザー

低域、中域、高域のコントロールを備えた 3 バンドのイコライザー（**EQUALIZER**）です。

[SHIFT] + [GLOBAL] を押してイコライザーをグローバルモードに設定すると、すべてのレイヤーに同じイコライザー設定が適用されます。



ベース（**BASS**）とトレブル（**TREBLE**）の周波数はそれぞれ 100 Hz と 4 kHz で固定です。ミッド（**MID**）の周波数は **[FREQ]** ノブを使用して 200 Hz から 8 kHz までの間で設定できます。

ブースト/カットの範囲は ± 15 dB です。

アンプ

アンプ（**AMP**）ユニットには、洗練されたアンプとスピーカーキャビネットのシミュレーション、さまざまに使えるオーバードライブが含まれています。オーバードライブの強さは、**[DRIVE]** ノブでコントロールします。オーバードライブがアクティブになっていると、**ON LED** が点灯します。



チューブオーバードライブ

アンプモデルが選択されていない場合、Amp ユニットの、微妙なサチュレーションから「スクリーミングディストーション」に至るまでさまざまに使える、真空管スタイルのオーバードライブを提供します。

アンプモデル

セクターボタンを押すと、3 つの異なるアンプ/スピーカーからどのモデルをシミュレートするかを選べます。

SMALL では、Reed に基づくエレクトリックピアノの内蔵真空管アンプとスピーカーのシミュレーションが提供されます。

JC では、クラシックなソリッドステートアンプとスピーカーキャビネットのシミュレーションが提供されます。

TWIN では、クラシックなツインスピーカー構成の真空管アンプとキャビネットのシミュレーションが提供されます。

Alt Tone 設定

[SHIFT] + [ALT TONE] を押すと、アンプモデルのレスポンスと周波数特性が切り替わります。

JC モデルと Twin モデルでは中音域の特性が変わり、高音域が減衰します。Small モデルではシミュレーションするアンプとスピーカーがさらに小さいものに切り替わり、その結果、ラジオのような特性を持つようになります。

コンプレッサー

コンプレッサー（**COMP**）は小さいレベルの信号を大きくし、大きいレベルの信号を小さくすることでサウンドのダイナミックレンジを狭くするエフェクトです。これにより、サウンドにはタイトさとパンチが生まれ、ライブミックスにおいては全体のレベルが制御しやすいものになります。

ACTIVE LED は、ソース信号のレベルがスレッシュホールドレベルを超えてコンプレッションが適用されている間点灯します。



[SHIFT] + [GLOBAL] を押してコンプレッサーをグローバルモードに設定すると、すべてのレイヤーに同じコンプレッサー設定が適用されます。

グローバルリバーブ

グローバルリバーブ（**GLOBAL REVERB**）ユニットはさまざまなアコースティック環境における音の残響をシミュレートします。

Nord Piano 6 においては、リバーブは「グローバル」なエフェクトです。つまり、プログラム内のすべてのレイヤーが、同一の設定を共有します。

ただし、**[SHIFT] + [LAYER SEND]** を押して「レイヤーセンド」モードをアクティブにすると、ドライ/ウェット比をレイヤーごとに設定できるようになります。



リバーブタイプとプリディレイ設定

6 種類の異なるリバーブタイプを選べます。

SPRING は、トーンホイールオルガン、ギターアンプ、その他多くの種類の機器に搭載されてきた、クラシックなスプリングリバーブのシミュレーションです。

BOOTH は、非常に短い減衰時間を持つ、小さな部屋のシミュレーションです。

ROOM は、比較的短い減衰時間を持つ、中程度の広さの部屋のシミュレーションです。

STAGE は、中程度の減衰時間を持つ、屋内の自然なアンビエントです。

HALL は、長い減衰時間を持つ、広々としたホールのような響きです。

CATH はカテドラル（cathedral）のことです。非常に長い減衰時間と没入感を持ったリバーブです。

[SHIFT] + [PRE-DELAY] を押すと、ウェット信号に遅延を追加します。これはウェット音の比率を高くしつつも細かいフレーズを聞き取りやすくしたい場合に役立ちます。

ブライต์/ダークモードとコラル設定

BRIGHT モードまたは **DARK** モードを使用すると、リバーブの周波数レスポンスを変更できます。これはすべてのタイプで有効です。Bright に設定すると低域をわずかに減衰させ、Dark では代わりに高域を減衰させます。

CHORALE 設定をアクティブにすると、リバーブ信号に与えられるピッチ変調が大きくなり、より強い存在感と効果を持ったサウンドになります。

レイヤーセンド

[SHIFT] + [LAYER SEND] を押してレイヤーセンド機能をオンにすると、レイヤーごとにドライ/ウェット比を設定できるようになります。

レイヤーセンドをオフにすると、現在フォーカスされているレイヤーのドライ/ウェット比がすべてのレイヤーに適用されます。

8 MIDI

MIDI 機能

Nord Piano 6 は、ほかのハードウェア機器やソフトウェア音源を制御するマスターキーボードとしても使用できます。また、別のキーボードや MIDI デバイスから Nord Piano 6 を制御することもできます。

MIDI チャンネル

Nord Piano 6 は MIDI メッセージを送受信するときに、送信用と受信用で同じ MIDI チャンネル番号を使います。これにより、Nord Piano 6 のあらゆる機能を外部から制御できます。また、Nord Piano 6 本体におけるキーボード、ペダル、およびパネルの操作を、別の MIDI デバイスやシーケンサーに送信することもできます。

MIDI メッセージは USB 接続と MIDI In/Out 接続の両方で同時に送受信されます。

Nord Piano 6 の演奏を音楽制作アプリに記録する

ここでは Nord Piano 6 を使ったパフォーマンス、つまりペダルやパネルの操作など、すべてのアクションを含めた演奏を、MIDI シーケンサーや DAW ソフトといった音楽制作アプリに記録する方法を説明します。

- 1

USB 端子で接続する場合は Nord Piano 6 USB MIDI ドライバーをセットアップし、MIDI 端子で接続する場合は適切な MIDI インターフェイスを用意します。
- 2

音楽制作アプリをセットアップして、Nord Piano 6 で設定した MIDI チャンネルを受信するようにルーティングします。
- 3

System メニューでローカルコントロールをオフにします。
- 4

Nord Piano 6 で使いたいプログラムを選択します。
- 5

音楽制作アプリで記録を開始します。
- i

パネルのトランスポーズ機能または System メニューの *Global Transpose* 設定によってトランスポーズ値が設定されている場合、記録される MIDI メッセージに影響を及ぼすかどうかは「*Transpose MIDI at*」設定によって異なります。

MIDI メッセージ

Nord Piano 6 では、これらの MIDI メッセージを送受信できます。

ノートオンとノートオフ

- ベロシティを含むノートオンとノートオフの送受信に対応しています。

コントローラー

- System メニューで Nord Piano 6 がコントロールチェンジメッセージを送受信するかを設定できます。

- コントロールペダルまたはエクスプレッションペダルが接続されている場合、CC#11（エクスプレッション）として送受信されます。
- サステインペダルが接続されている場合、CC#64（サステインペダル）として送受信されます。Nord Triple Pedal の右側ペダルについても同様に扱われます。
- フロントパネル上のほかのコントロールについても、そのほとんどすべてがコントロールチェンジメッセージとして送受信されます。フロントパネルに対する操作を音楽制作アプリに記録することができます。パラメーターと MIDI コントローラーナンバーとの対応については、「MIDI コントローラーナンバー表」（26 ページ）をご参照ください。

プログラムチェンジ

プログラムまたはライブプログラムをロードすると、グローバル MIDI チャンネルでプログラムチェンジメッセージが送信されます。それぞれのコンテンツタイプは、バンクセレクト MSB 値によって識別されます。反対に、プログラムチェンジメッセージを受信すると、Nord Piano 6 は対応するコンテンツを選択します。

1 つの MIDI プログラムバンクは、36 個のプログラムからなる 3 つのバンクで構成されています。プログラム番号は 1～108 です。プログラムチェンジメッセージは次の 3 つの要素から構成されます。

	プログラム	ライブプログラム
Bank Select MSB	0	1
Bank Select LSB	0～5	0
Program Change	1～108	1～6

- i

バンクセレクトメッセージを伴わないプログラムチェンジメッセージを受信すると、Nord Piano 6 は現在選択されているプログラムバンクまたはライブプログラムバンクの中からプログラムをロードしようとします。

System メニューでは、現在設定されている MIDI チャンネルで Nord Piano 6 がプログラムチェンジメッセージを送受信するかどうかを設定できます。詳細については、「Program Change Mode」（26 ページ）をご参照ください。

ローカルコントロール

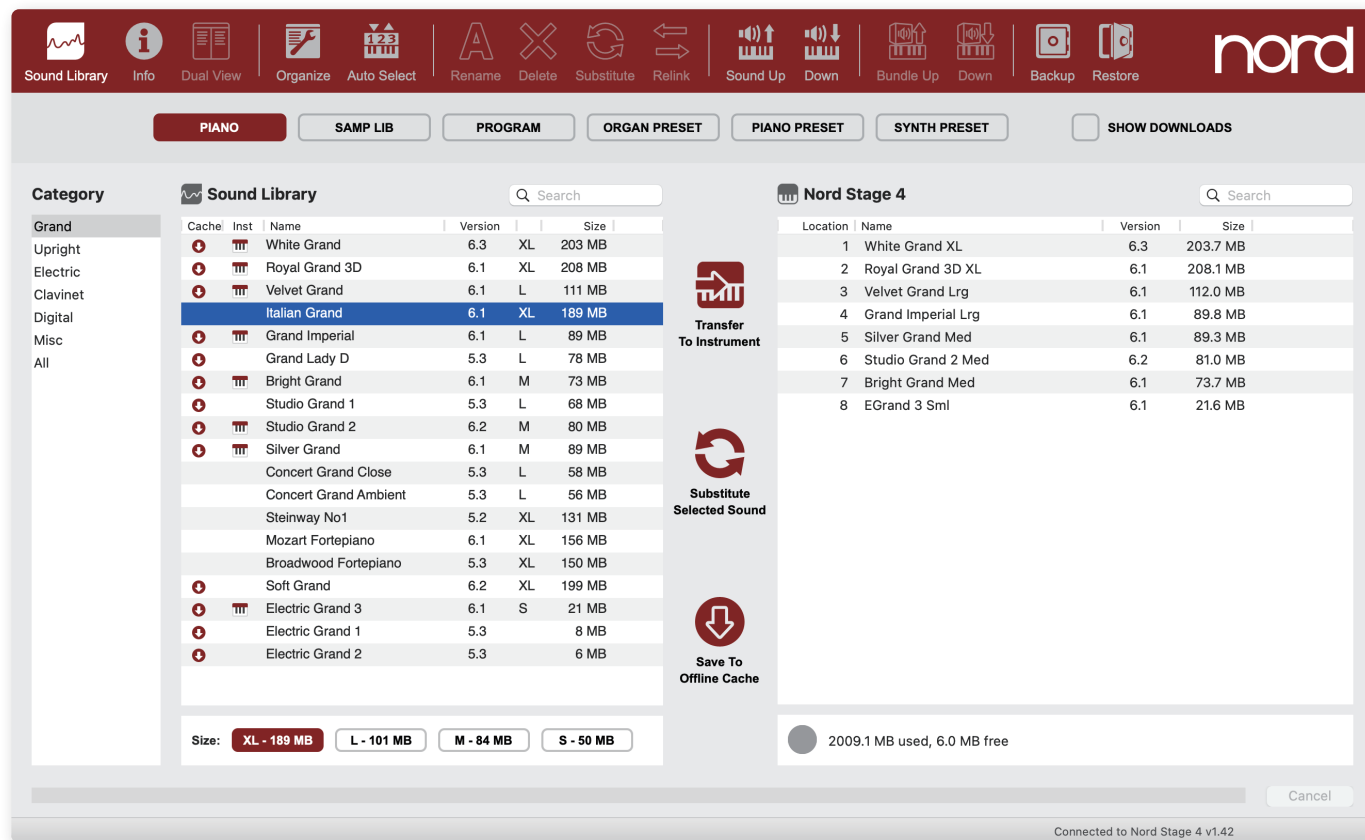
ローカルコントロールがオフに設定されている場合、Nord Piano 6 のキーボードとパネルは音源から「切断」されます。Nord Piano 6 の MIDI ルーティングがループ状に構成されている場合、たとえば音楽制作アプリと組み合わせて使用する場合には、ローカルコントロールをオフに設定します。詳しくは「System メニュー」（30 ページ）をご参照ください。

パニック



[SHIFT] + [PANIC] を押すと、音源の内部に「オールノートオフ」MIDI メッセージが送られ、サステインペダルがリセットされます。これは、MIDI パフォーマンスやライブパフォーマンスの途中で音が止まらなくなった場合、またはほかの理由ですべてのサウンドをすぐに止める必要が生じた場合に使用できます。

9 Nord Sound Manager



Nord Sound Manager について

Nord Sound Manager は、Nord Piano 6 の内蔵メモリーに保存されたさまざまなデータに対しアクセス、入れ替え、バックアップといった操作を提供するアプリケーションです。

バージョン9からは、インターネット上の Nord Piano Library と Nord Sample Library をアプリからダウンロードできる機能が追加されました。これにより、Nord Web サイトにアクセスする必要があった従来と異なり、新しい音色を探してお使いの機器へ転送するまでの作業をアプリ内で完結できるようになりました。

Nord Sound Manager でできることの一例を次に示します。

- ・ プログラムの並べ替えおよび名前の変更。
- ・ コンピューターからのピアノサウンドのダウンロード。
- ・ コンピューターからのサンプルファイルのダウンロード。
- ・ コンピューターからのピアノプリセットとシンセプリセットのダウンロード。
- ・ コンピューターへのプログラムやプリセットのアップロード。
- ・ コンピューターへのプログラムと使用されているピアノサウンドやサンプルファイルのバンドルのアップロード。
- ・ コンピューターへの Nord Piano 6 全体のバックアップ。
- ・ バックアップを使用した Nord Piano 6 全体のレストア。

Nord Sound Manager は Nord Web サイトの「Software」エリアからダウンロードできます。

<https://www.nordkeyboards.com/software/nord-sound-manager/>

動作環境

macOS 10.13 以降

Windows 7～11

Windows 環境での使用には、Nord USB ドライバー v4.0 以降が必要です。ドライバーは、OS アップデーター、Nord Sound Manager、および Nord Sample Editor 4 に同梱されていますが、必要に応じて単独でダウンロードすることもできます。

10 Nord Sample Editor 4



Nord Sample Editor 4 について

Nord Sample Editor 4 は、サンプルシンセレイヤーで使用するカスタムサンプルの作成ツールです。録音ボタンを押す、オーディオファイル(.wav または .aiff) を希望するキーにドラッグアンドドロップする、といった簡単な操作で、波形エディター上にスタート、ストップ、およびループポイントが設定され、Nord Piano 6 で演奏する準備が整います。

フルマッピングされた音源の作成、効果音やイントロの「ポン出し」用途など、Nord Sample Editor 4 は Nord Piano 6 とともに多くの可能性を切り拓きます。Nord Sample Editor 4 の主な機能を次に示します。

- ・ 直感的なユーザーインターフェイス。
- ・ アプリケーション単独での録音機能。
- ・ 単一または複数のファイルのドラッグアンドドロップへの対応。
- ・ 自動または手動によるインポート。
- ・ 複数ゾーンに対する一括編集。
- ・ 無音ゾーンの作成。

Nord Sample Editor 4 は Nord Web サイトの「Software」ページからダウンロードできます。

<https://www.nordkeyboards.com/software/nord-sample-editor-4/>

動作環境

macOS 10.13 以降

Windows 7～11

Windows 環境での使用には、Nord USB ドライバー v4.0 以降が必要です。ドライバーは、OS アップデーター、Nord Sound Manager、および Nord Sample Editor 4 に同梱されていますが、必要に応じて単独でダウンロードすることもできます。

11 メニュー

メニューでおこなった設定の変更はすぐに反映され、次に変更されるまで保存されます。

i MIDI メニューの **Local Control** 設定は例外で、Nord Piano 6 が起動されるたびに毎回「On」に戻ります。

[SHIFT] を押しながら **PROGRAM [2]** を押すと System メニュー、**[SHIFT]** を押しながら **PROGRAM [3]** を押すと Sound メニュー、**[SHIFT]** を押しながら **PROGRAM [4]** を押すと MIDI メニュー、**[SHIFT]** を押しながら **PROGRAM [5]** を押すと Pedal メニューが開きます。

1 つのメニューページに、関連する複数の設定項目がまとめられていることがあります。ディスプレイの下部にラベルが表示されている場合、対応するプログラムボタンでフォーカスする項目を切り替えることができます。

メニューを閉じるには、**[EXIT]** ボタンを押します。

System メニュー

1 — Memory Protect

誤ってプログラムが上書きされることを防ぐため、工場出荷時の Nord Piano 6 はメモリープロテクトがオンに設定されています。すべてのストア操作を有効にするには、これをオフに設定します。メニューの設定と 6 つのライブプログラムはこの設定の影響を受けません。

設定値: On (既定値)、Off

2 — Global Transpose

Nord Piano 6 全体を半音単位でトランスポーズします。たとえば、プログラムトランスポーズ値が +5、グローバルトランスポーズ値が -1 の状態で C4 キーを打鍵すると、E4 が発音します。

設定値: -6 ~ none (既定値) ~ +6 semi

3 — Fine Tune

Nord Piano 6 全体のピッチを 1/100 半音単位で調整します。

設定値: -50 ~ 0 (既定値) ~ +50 cent

4 — LED Intensity

パネル上の LED の輝度を選択します。さまざまなステージや照明に合わせる必要がある場合に役立ちます。

設定値: Low、High (既定値)

5 — Version

現在インストールされているオペレーティングシステム (OS) とハードウェア (HW) のバージョンが表示されます。

[PROGRAM] ダイアルを回すと、OS/HW 情報の表示が切り替わります。

Sound メニュー

1 — Volume Level Offset

すべてのレイヤーの出力レベルを上下させ、プログラム全体の出力レベルを一時的に調整します。変更を保存するにはストア操作を行う必要があります。

設定値: -12 ~ 0 (既定値) ~ +12 dB

2 — Output

Nord Piano 6 の出力は、ステレオ仕様とモノラル仕様、どちらにも設定できます。モノラルモードでは、**LEFT OUT** と **RIGHT OUT** の両方から同じモノラル信号が出力されます。

設定値: Stereo (既定値)、Mono

3 — Piano Pedal Noise Level

対応ペダルが Nord Piano 6 に接続されている場合に適用できる、ピアノのペダルノイズのレベルを設定します。

設定値: -6 ~ 0 (既定値) ~ +6 dB

MIDI メニュー

1 — Local Control

Nord Piano 6 本体の鍵盤やフロントパネルに、内部のサウンドエンジンを制御させるかどうかを設定します。ローカルオンは、いわば通常の「演奏モード」です。ローカルコントロールをオフにすると、鍵盤やフロントパネルの操作で生成された MIDI メッセージは外部に送信されるのみにとどまり、内部のサウンドエンジンに影響を及ぼさなくなります。

設定値: Off、On (既定値)

i **Local Control** 設定は、Nord Piano 6 の電源を入れるたびに毎回「On」に戻ります。

2 — MIDI Channel

Nord Piano 6 が鍵盤、パネル、ペダルすべてのアクションを MIDI メッセージとして送信するときに使う MIDI チャンネルを設定します。また、これらの種類の MIDI メッセージを同じ番号のチャンネルから受信させることで、外部から Nord Piano 6 全体を制御することもできます。

設定値: 1 (既定値) ~ 16、Off

3 — MIDI Program/Control/Device Change

Program Change Mode

プログラムチェンジを送受信するかどうかを設定します。

設定値: Off、Send、Receive、Send & Receive (既定値)

Control Change Mode

コントロールチェンジを送受信するかどうかを設定します。この設定は、ほとんどのパネルコントロールが生成する、単一の MIDI メッセージからなるもののほかに、**[PIANO SELECT]** ダイアルや **[SAMPLE SELECT]** ダイアルによって生成される、複数の MIDI メッセージからなるもの (NRPN) の両方を対象とします。それぞれのコントローラーナンバーについては、「MIDI コントローラーナンバー表」(31 ページ) をご参照ください。

設定値: Off、Send、Receive、Send & Receive (既定値)

Device Change Mode

デバイスメッセージを送受信するかどうか、ここで設定します。Nord Piano 6 では、ペダルなどの物理コントローラーの操作によって生成される MIDI メッセージのことをデバイスメッセージと呼びます。

設定値: Off、Send、Receive、Send & Receive (既定値)

4 — Transpose MIDI At

グローバル設定とプログラムごとの設定を足し合わせたトランスポーズ値を、Nord Piano 6 の内と外のどちらで適用するかを設定します。「In」に設定すると、受信した MIDI ノートメッセージにトランスポーズ値が適用されます。「Out」に設定すると、送信する MIDI ノートメッセージにトランスポーズ値が適用されます。「In」のときの送信ノートおよび「Out」のときの受信ノートは、トランスポーズ値の影響を受けません。

設定値: In (既定値)、Out

5 — MIDI Out Velocity Curve

Nord Piano 6 から送信される MIDI ノートのベロシティをどのようにスケールするかを設定します。既定の「Heavy」設定では、ベロシティ値が Nord Piano 6 ピアノエンジンのダイナミックレンジと対応したものに なります。「Medium」設定および「Light」設定では、軽いタッチでラウドな演奏ができるようになります。

設定値: Standard (Heavy) (既定値)、Medium、Light

Pedal メニュー

1 — Control Pedal

Type

Nord Piano 6 の **CTRL/VOL PEDAL** 端子には、市販のエクспレッションペダルを接続できます。使うペダルに合わせて設定を選びます。

🔍 メニューページを開きながらペダルを操作すると、接続されたペダルの示す値が画面の右側に表示されます。

設定値: Roland EV7 (既定値)、Yamaha FC7、Korg、Fatar SL、Nord SP-2

Gain

ペダルが示す値に係数をかけます。これは、ペダルをいっばいに踏み込んでも最大レベルに達しないときに役立ちます。値が大きくなるほど大きな係数がかかり、(ダイナミックレンジとは引き換えに) 最大レベルに達しやすくなります。

設定値: 1 (既定値) ~ 10

2 — Sustain Pedal Type

SUSTAIN PEDAL 端子に接続したペダルを選びます。ディスプレイには 1 つまたは 3 つの垂直のバーが、選択したタイプに応じて表示されます。ペダルが正しく接続され、Type が適切に設定されている場合、ペダルの踏み込みに応じてバーが埋まります。トリプルペダルを接続している場合は、左側、中央、右側のそれぞれが 3 つのバーの位置に対応します。

「Nord SP-1」、「Normally Open」、「Normally Closed」は、シンプルなおん/オフタイプのペダルに対応します。「Nord SP-2」は値の連続的な検出が可能なタイプであり、トリプルペダルと同様にペダルノイズとハーフペダルに対応します。「Nord TP-1」は従来の Nord Triple Pedal 1 に対応します。Nord Triple Pedal 2 は専用の 5 ピンコネクターを使って **TRIPLE PEDAL** 端子に接続するため、この設定の影響を受けません。

設定値: Nord SP-1 (既定値)、Nord SP-2、Nord TP-1、Normally Open、Normally Closed

3 — Triple Pedal Function

SUSTAIN PEDAL 端子に接続された Nord Triple Pedal 1、および **TRIPLE PEDAL** 端子に接続された Nord Triple Pedal 2 は、多種多様なセットアップとさまざまな機能のコントロールを実現できます。右側のペダルは常にサステイン機能です。左側と中央のペダルはそれぞれ多くのパラメーターのコントロールに使えます。

Left 設定値: Una Corda (既定値)、Synth Vibrato、Program Up、Program Down

Mid 設定値: Sostenuato (既定値)、Synth Vibrato、Program Up、Program Down

4 — Foot Switch

Type

Nord Piano 6 の **FOOT SWITCH** 端子には、1 つまたは 2 つのボタン/スイッチを備えたさまざまな機器を接続できます。使う機器に合わせて設定を選びます。

ペダルの極性がわからない場合は、期待通りに動作するか実際に試します。画面右側のインジケーターを目視することでも確認できます。うまく動作しない場合はもう片方の極性（元がオープンならクローズ、元がクローズならオープン）を選びます。

i Nord Single Pedal 2 およびその他のハーフペダル対応のペダルは Foot Switch 端子に対応していません。

設定値: Single Open（既定値）、Single Closed、Dual Open、Dual Closed

Sw A（A Function）

接続したシングルペダル、またはデュアルペダルの 1 番目のスイッチの機能を設定します。

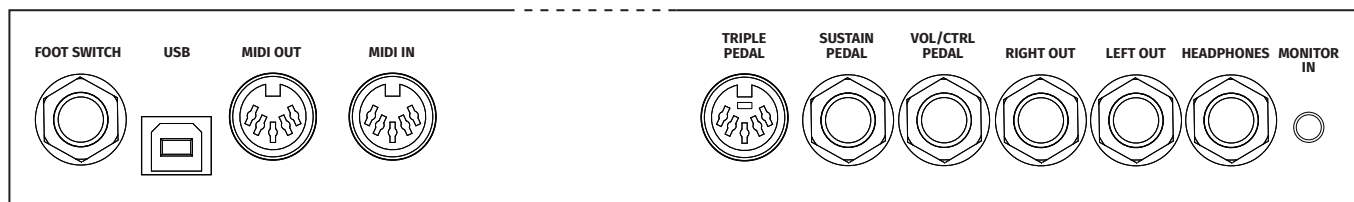
設定値: Synth Vibrato、Program Up、Program Down

Sw B（B Function）

接続したデュアルペダルの 2 番目のスイッチの機能を設定します。シングルペダルが接続されている場合は効果がありません。

設定値: Synth Vibrato、Program Up、Program Down

接続端子



オーディオ

アンプやスピーカーの電源を入れる前に、すべてのオーディオ接続を行います。アンプの電源を入れるのは、必ず最後にしてください。シャットダウンするときは、必ず最初にアンプやスピーカーの電源をオフにしてください。

⚠ Nord Piano 6 を大音量で使用すると、聴覚を傷める危険があります。

Headphones

1/4 インチのステレオヘッドホン出力です。

Left Out & Right Out

1/4 インチ、アンバランスのラインレベル出力です。アンプやレコーディング機器に接続します。Nord Piano 6 は、左右のオーディオチャンネルに個別のシグナルパスを備えており、ステレオ音源を出力できます。

Monitor In

スマートフォン、タブレット、コンピューターなどの音源を Nord Piano 6 に入力するための、3.5 mm ステレオミニジャックです。これを活用すると Nord Piano 6 から録音済みの音楽やメトロノームを流すことができます。リハーサルや、同期演奏を活用したパフォーマンスにも便利です。

❗ Master Level コントロールは、Monitor In 信号のレベルには影響しません。

MIDI

MIDI In

5 ピンの MIDI In 端子は、コントローラーキーボード、シーケンサー、またはコンピューターなどの外部デバイスから MIDI データを受信するために使用されます。

MIDI Out

5 ピンの MIDI Out 端子は、音源モジュールやコンピューターなどの外部デバイスに MIDI データを送信するために使用されます。

USB

USB 端子は Nord Piano 6 をコンピューターに接続するために使用されます。USB で接続することで、MIDI メッセージの送受信、本体 OS のアップデートのほか、Nord Sound Manager や Nord Sample Editor 4 との通信も行えます。これらのアプリケーションと本体 OS の最新版は、Nord Web サイトからいつでもダウンロードできます。

❗ USB MIDI と 5 ピン MIDI 端子は常に同時に使用できます。

ペダル

Triple Pedal

6 ピンの Triple Pedal 入力には Nord Triple Pedal 2 (TP-2) ユニットのみに互換性があります。3 つのペダルは、ピアノ関連の機能に限って使用することも、その他のさまざまな機能を制御するために使用することもできます。詳しくは「Pedal メニュー」(33 ページ)をご参照ください。

Sustain Pedal

Nord Sustain Pedal 1 (SP-1)、Nord Sustain Pedal 2 (SP-2)、Nord Triple Pedal 1 (TP-1)、すべての一般的なタイプのサステインペダルを入力するための 1/4 インチジャックです。サステインペダルのタイプと極性は、Pedal メニューで設定します。

Vol/Ctrl Pedal

エクスプレッションペダルをレイヤーボリュームや Effect 1 Amount のコントローラーとして使用するための 1/4 インチジャックです。一般的なエクスプレッションペダルのほとんどのモデルをサポートします。どのモデルを接続しているかは、Pedal メニューで設定します。

Foot Switch

シングルタイプまたはデュアルタイプの、ボタン/モーメンタリーペダル用に備えられた 1/4 インチジャックです。フットスイッチにはシンセピブラートまたはプログラムチェンジを割り当てることができます。詳しい設定方法については、「Pedal メニュー」(33 ページ)をご参照ください。

Nord Piano Monitor

Nord Piano 6 は、ピアノサウンドの再現のために特別にデザインされた別売のスピーカー、Nord Piano Monitor の取り付けに対応しています。取り付けには、製品に同梱されている専用のブラケットを使います。Nord Piano Monitor の詳しい情報および取り付け方については、Nord Web サイトをご参照ください。

<https://www.nordkeyboards.com/accessories/piano-monitor/>

MIDI コントローラーナンバー表

Nord Piano 6 のパラメーターには、単一の MIDI CC メッセージで制御できるものと、複数の MIDI CC メッセージで制御するもの、つまり NRPN (Non-Registered Parameter Number) が割り当てられているものとの両方が存在します。

NRPN を MIDI 制御に使うパラメーターは、下表のうちコロンで区切られているものです。最初の番号は CC#99 (NRPN MSB) に、2 つ目の番号は CC#98 (NRPN LSB) に、それぞれ対応します。CC#99 と CC#98 でどのパラメーターを変更するかを指定した後、値を CC#38 (Data Entry LSB) で指定します。特にことわりがない限り、CC#6 (Data Entry MSB) は 0 として扱われます。

完全な NRPN メッセージは、CC#99、CC#98、CC#6、および CC#38 の 4 つの MIDI CC メッセージから構成されます。

Nord Piano 6 パラメーター	CC#	Nord Piano 6 パラメーター	CC#	Nord Piano 6 パラメーター	CC#
Volume	7	Sample Synth Volume Pedal	47	EQ Global	33
Pan	10	Sample Synth Vibrato Mode	50		
		Sample Synth Vibrato Rate	45	Amp Enable	108
Sustain	64	Sample Synth Vibrato Amount	46	Amp Type	110
Soft Pedal	67	Sample Synth Vibrato Delay	51	Amp Drive	106
Sostenuto	66	Sample Synth Vib Btn Activate	16	Amp Alternate Tone	119
Ctrl Pedal (Expression)	11	Sample Synth Vib Btn Enable	49		
		Sample Synth Voice Mode	52	Compressor Enable	116
FX Focus	31	Sample Synth Glide Rate	48	Compressor Amount	117
FX Group Piano	75	Sample Synth Unison	53	Compressor Global	28
FX Group Sample Synth	76	Sample Synth Attack	68		
		Sample Synth Decay/Sustain	69	Delay Enable	92
Piano Layer Focus	109	Sample Synth Release	71	Delay Dry/Wet	93
Piano Layer Enable	72	Sample Synth Dynamics	54	Delay Rate	94
Piano Layer A Level	34	Sample Synth Sample Select	3 : 4	Delay Feedback	95
Piano Layer B Level	56			Delay Ping Pong	91
Piano Octave Shift	35	Mod 1 Enable	79	Delay Filter Type	88
Piano Sustain Pedal	36	Mod 1 Type	80	Delay Flam	87
Piano Volume Pedal	37	Mod 1 Amount	85	Delay Global	29
Piano Timbre	27	Mod 1 Rate	86		
Piano Acoustics	22	Mod 1 Ctrl Ped	81	Reverb Enable	17
Piano KB Touch	24			Reverb Type	19
Piano Pedal Noise	23	Mod 2 Enable	118	Reverb Dry/Wet	113
Piano Unison	25	Mod 2 Type	83	Reverb Bright/Dark	18
Piano Dyn Comp	26	Mod 2 Amount	89	Reverb Chorale	21
Piano Select	2 : 33	Mod 2 Rate	90	Reverb Pre-Delay	20
		Mod 2 Mono	84	Reverb Layer Send Enable	112
Sample Synth Layer Focus	115	EQ Enable	105		
Sample Synth Layer Enable	61	EQ Bass Gain	102		
Sample Synth Layer A Level	43	EQ Mid Gain	103		
Sample Synth Layer B Level	57	EQ Mid Frequency	107		
Sample Synth Octave Shift	44	EQ Treble	104		
Sample Synth Sustain Pedal	42				

アップデート手順ガイド

Nord オペレーティングシステム

製品が改良される中で、各モデルのオペレーティングシステム（OS）に機能の追加や動作の改善といったアップデートが提供されることがあります。アップデートに使用する専用アプリケーションは Windows と Mac の両方に対応しており、いずれも Nord Web サイトから無料でダウンロードできます。ダウンロードページでは更新履歴（Update History）を閲覧することもできます。

バージョン番号

バージョン番号は 1 桁の整数部分と 2 桁の小数部分で構成されます。整数部分は大きな機能追加があるたびに 1 増えます。小数第 1 位は中程度の機能追加があったことを示し、小数第 2 位は小さな変更やバグ修正を示します。お使いの機器の OS バージョンは、電源を入れたときにディスプレイに表示されます。

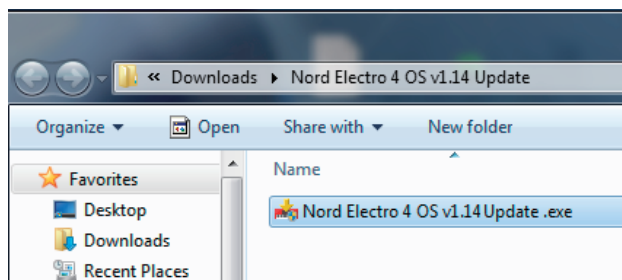
お使いの機器をアップデートするとき、順を追ってすべてのリリースを経由する必要はありません。たとえば、v2.02 の個体を（v3.x を経由せず）v4.10 にアップデートすることができます。最新の OS アップデートを適用し、最新バージョンの Nord Sound Manager を使用することをおすすめします。

Windows をお使いの場合

- 1 Nord Web サイトの「Downloads」ページから、アップデートユーティリティをダウンロードします。ファイルは zip 形式で圧縮されており、「Update Nord Stage 4 OS v1.24.zip」のように、モデル名とバージョン番号を示す名前が付けられています。

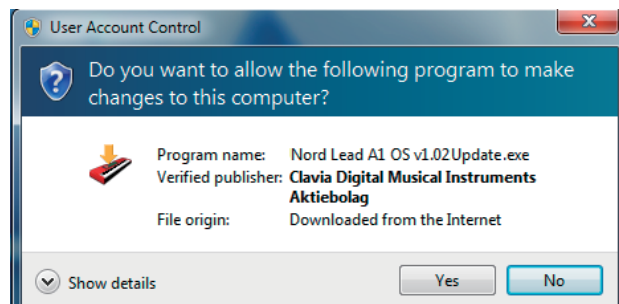


- 2 ダウンロードした zip ファイルを解凍します。zip ファイルと同じ名前の実行可能ファイル（アプリケーション）が表示されます。



- 3 お使いの機器をコンピューターと接続します。

- 4 "Update Nord ○○○○○○ OS v○.○○ .exe" をダブルクリックします。Windows ユーザー アカウント制御の確認が表示された場合、[はい] をクリックします。



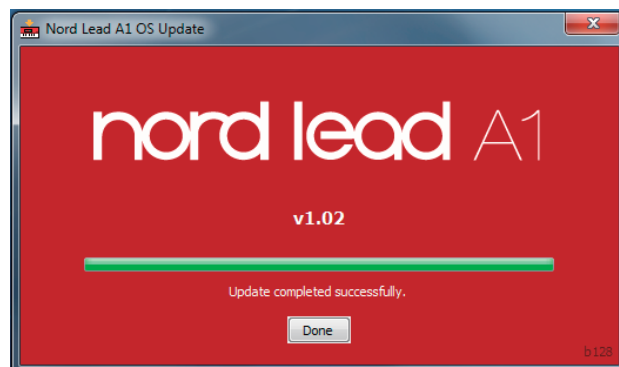
- 5 アップデートユーティリティが、コンピューターに接続された機器を検索します。Nord 製品を見つけると、現在の OS バージョンを表示します。



- 6 [Update] をクリックします。お使いの機器は、アップデートモードで再起動されたのち、OS を消去され、新しい OS を受信します。進行状況バーは、転送がどの程度進んだかを示します。

⚠ アップデート処理中は、電源を切ったり USB ケーブルを取り外したりしないでください。

- 7 OS アップデートが完了すると、お使いの機器は自動的に再起動します。[Done] ボタンをクリックして、アプリケーションを終了します。



Windows 用 Clavia USB ドライバー

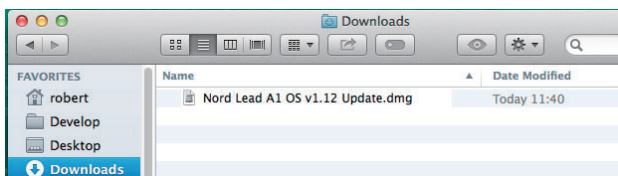
Windows と Nord 製品が通信を行うには、ドライバがインストールされている必要があります。ドライバを手動でインストールする必要がある場合は、インストーラーを Nord Web サイトからダウンロードします。

Mac をお使いの場合

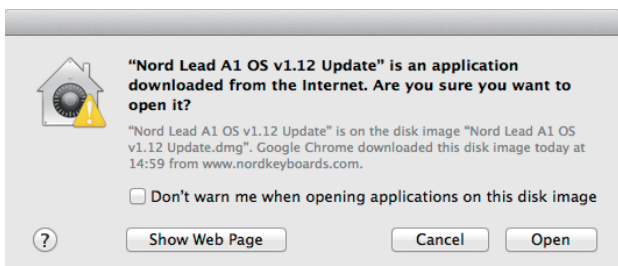
- 1 Nord Web サイトの「Downloads」ページから、アップデートユーティリティをダウンロードします。ファイルはディスクイメージ形式で、"Update Nord Stage 4 OS v1.24.dmg" のように、モデル名とバージョン番号を示す名前が付けられています。



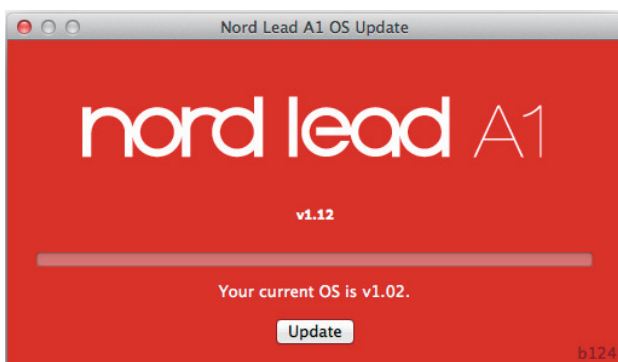
- 2 ダウンロードしたディスクイメージを開きます。ディスクイメージファイルと同じ名前のアプリケーションが表示されます。



- 3 お使いの機器をコンピューターと接続します。
- 4 "Update Nord ○○○○○○ OS v○.○○ .app" をダブルクリックします。macOS の確認が表示された場合、[開く] をクリックします。



- 5 アップデートユーティリティが、コンピューターに接続された機器を検索します。Nord 製品を見つけると、現在の OS バージョンを表示します。



- 6 [Update] をクリックします。お使いの機器は、アップデートモードで再起動されたのち、OS を消去され、新しい OS を受信します。進行状況バーは、転送がどの程度進んだかを示します。
- ▲ アップデート処理中は、電源を切ったり USB ケーブルを取り外したりしないでください。

- 7 OS アップデートが完了すると、お使いの機器は自動的に再起動します。[Done] ボタンをクリックして、アプリケーションを終了します。



困ったときは

アップデートがうまく進まない場合は、次の方法をお試しください。

- Nord Sound Manager や DAW ソフト等、USB 経由でお使いの機器と通信する可能性のある他のアプリケーションが起動していないことを確認します。
- お使いの機器の電源が入っていることを確認します。
- 正しいアップデートユーティリティを使用していることを確認します。たとえば、Nord Stage EX と Nord Stage Classic は、異なるアップデートユーティリティを使用する 2 つの異なるモデルです。
- USB ケーブルが正しく接続されていることを確認します。
- (Windows の場合) USB ドライバーがインストールされていることを確認します。
- USB ケーブルをいったん取り外して、もう一度差し込みます。
- 別の短い USB ケーブルを使います。

アップデートモードで起動する

非常にまれなケースでは、OS が破損して正常に起動しなくなり、Nord 製品がアップデートユーティリティと通信できなくなることがあります。この場合、[SHIFT] + [STORE] を押しながら電源を入れます。これにより、お使いの機器はアップデートモードで起動し、アップデートユーティリティのアクセスを受け入れるようになります。

IV ファクトリーレストア手順ガイド

お使いの機器を工場出荷時の状態に戻すには、Nord Sound Manager とファクトリーレストア（Factory Restore）ファイルを使います。ファクトリーレストアファイルの実体は、モデルごとに作成されたバックアップファイルです。ファクトリーレストアファイルは、それぞれの工場出荷時における機器の設定とすべてのサウンドを含みます。Nord Sound Manager とファクトリーレストアファイルは、いずれも Nord Web サイトの「Downloads」ページから無料でダウンロードできます。

i 可能な限り最新の OS、最新の Nord Sound Manager、最新のファクトリーレストアファイルを使用することをおすすめします。

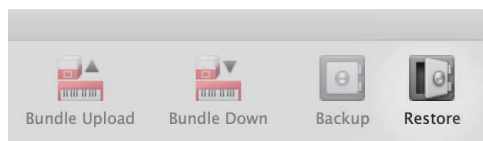
ファクトリーレストアファイルはその名前の末尾に、リビジョンを示す文字とバージョン番号を付されています。リビジョンは最初のリリースである「RevA」から始まり、コンテンツの更新があるたびに RevB、RevC と続きます。バージョン番号はそのバックアップファイルを作成するときに使用された機器の OS バージョンを示します。

i ファクトリーレストアファイルとお使いの機器との間にバージョンの差がある場合、機器側が新しいぶんには問題なく使用できます。機器側の OS バージョンの方が古い場合、最新のアップデートを適用することをおすすめします。

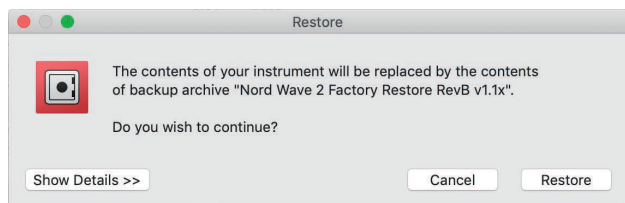
- 1 お使いの機器に応じたファクトリーレストアファイルをダウンロードします。



- 2 機器をコンピューターに接続し、Nord Sound Manager を起動します。
- 3 ツールバーの [Restore] をクリックします。



- 4 ダウンロードしたファクトリーレストアファイルを開きます。機器側のコンテンツが確認され、ファクトリーレストアファイルの検証が始まります。
- 5 [Restore] をクリックすると、お使いの機器にあるすべてのコンテンツがファクトリーレストアファイルの内容に書き換えられます。



⚠ この操作は取り消せません。

⚠ レストア処理中は、電源を切ったり USB ケーブルを取り外したりしないでください。

V 索引

数字

440 Hz / 442 Hz → Fine Tune 30

A

ALT TONE 24
AMP 24
ATTACK 17

B

BANK 20
BOOTH 25
BRIGHT 25

C

CATEGORY 16
CATH 25
CHORALE 25
CHORUS 1 23
CHORUS 2 23
COMP 24
Control Pedal 31
CTRLPED 22
CTRL/VOL PEDAL 端子 22

D

DARK 25
DECAY/SUSTAIN 17
DELAY 23
DYNAMICS 17
DYN COMP 14
DYNO 15

E

EQUALIZER 24
Expression Pedal → Control Pedal 31

F

Fine Tune 30
FLAM 24
FLANGER 23
Foot Switch 31

FX FOCUS 22

G

GLIDE 17
GLOBAL REVERB 22, 25
Global Transpose 30
GROUP 22

H

HALL 25

J

JC 24

K

KB TOUCH 14
KB ZONE、サンプルシンセ 16、ピアノ 12

L

LAYER SEND 22, 25
LEGATO 17
LIVE MODE 19
Local Control 30

M

Memory Protect 30
MIDI、シーケンサー 26、チャンネル 26
MONO 17

N

NUM PAD 19

O

OCTAVE SHIFT、サンプルシンセ 16、ピアノ 12
ORGANIZE 20

P

PAGE 20
PAN 1 23
PAN 2 23
PEDAL NOISE 14
PHASER 23
PIANO SELECT 13
PING PONG 23
PRE-DELAY 25
PROG VIEW 20

R

RATE/AMT 17
RELEASE 17
REVERB 25
RM 23
ROOM 25

S

SAMPLE 16
SAMPLE INFO 17
SMALL 24
SPIN 23
SPRING 25
STAGE 25
SUST PED、サンプルシンセ 16、ピアノ 12

T

TIMBRE 15
TRANPOSE 18
TREM 22
TWIN 24

U

UNISON、サンプルシンセ 17、ピアノ 15

V

VIBE 23
VIBRATO 17
VOL PED、サンプルシンセ 16、ピアノ 12

W

WAH 23

あ

アンプ 24

い

イコライザー 24
移調 → Global Transpose 30
移調 → トランスポーズ 18

え

エクスプレッションペダル 31
エフェクトフォーカス、サンプルシンセ 16、ピアノ 12
エンベロープ 17

お

オートパン → パン 23
オーバードライブ 24
オクターブシフト、サンプルシンセ 16、ピアノ 12
音が止まらなくなった 27

き

キーボードゾーン、サンプルシンセ 16、ピアノ 12
キーボードタッチ 14
基準ピッチ → Fine Tune 30

く

グライド 17
グループ 22
グローバルリバーブ 22, 25

け

減衰 → エンベロープ 17

こ

コーラス 23
コントロールペダル 31
コンプレッサー 24

さ

サステインペダル、ピアノ 12, 16

す

ステレオ 30、エフェクト 23
ストア 19
ストリングレゾナンス 13

スピン 23
スプリット 18、クロスフェード 19

そ

ソステヌート 14
ソフトペダル 14

た

ダイアル 8
ダイナミクス 17
ダイナミックコンプレッション 14
タップテンポ、ディレイ 24

て

ディレイ 23、ピンポンディレイ 23、フィードバック 24
ティンバー 15
デチューン → ユニゾン 17

と

トランスポーズ 18
トレモロ 22

に

ニューメリックパッド 19

の

ノブ 8

は

ハーフペダル 14
パイプ 23
パニック 27

ひ

ピックアップ、クラビネット 13
ビブラート 17
ピンポンディレイ 23

ふ

フェイザー 23
フェーダー 8
フットスイッチ 31
フラム 24
フランジャー 23
プリディレイ 25

プログラム、並べ替える 20、プログラムとは 20、
ライブプログラム 19、レギュラープログラム 19
プログラムセクション 9

へ

ペダルノイズ 14

ほ

保存 → ストア 19
保存できない → Memory Protect 30
ボタン 8、セクターボタン 8、ソフトボタン 8、ボ
タンの長押し 8
ポリウムペダル、ピアノ 12, 16
ポルタメント → グライド 17

め

メモリープロテクト 30

も

モノフォニック → Mono モード 17
モノラル 30
モノラル、エフェクト 23

ゆ

ユニゾン、サンプルシンセ 17、ピアノ 15

ら

ライブプログラム 19
ライブモード 19

り

リストビュー 9、サンプルシンセ 17, 20、ピアノ 13
リバーブ 25
リングモジュレーション 23

れ

レイヤーセンド 22, 25
レガート 17

ろ

ローカルコントロール → Local Control 30

わ

ワウ 23

